K－549

米沢市埋蔵文化財調査報告書　第53集

一ノ坂遺跡

発掘調査報告書

〈本文・挿図編〉

米沢市教育委員会

米沢市埋蔵文化財調査報告書　第53集

一ノ坂遺跡

発掘調査報告書

＜本文・挿図編＞

1 9 9 6

米 沢 市 教 育 委 員 会

序　　文

「一ノ坂遺跡」は、米沢盆地の西南部に位置する縄文前期の集落遺跡で、河岸段丘に広がる豊沃な果樹園地帯です。近年、この地域も急速に住宅地化が進行しており、平成元年に個人の住宅建設工事に伴う緊急発掘調査が実施されました。

その結果、国内最長の大型住居跡が発見され、さらに、製作途上の未完成品を含む約二百万点を超える石器類が出土しました。このようなことから、この大型住居跡は石器を製作していた工房跡と考えられます。

その後、平成2年から平成6年に亘って、文化庁の国庫補助事業の採択を受け、学術調査を実施してきました。その概要は、第1集～第5集からなる『一ノ坂遺跡調査概要』として発刊しております。本書は、これらの調査成果を集大成したものであり、“本文・挿図編”及び“写真図版編”の二分冊にして収録してあります。

今回の重要な発見に鑑み、市ではこの大型住居跡地を買い取り、遺構を保存しており、関連する周辺地についても、土地所有者の理解を得て、現況保存しております。

また、一ノ坂遺跡等で使用された石器材料の頁岩は、本市の西側を流れる鬼面川流域にかけて存在することが分布調査によって確認され、全国でも最大級の頁岩産地であることが判ってきました。現在、米沢市の365箇所の縄文時代の遺跡は、このような背景の中で成立したものと考えられます。

本市には、このような、私たちの祖先が残した貴重な文化遺産が数多くあり、これらを長く後世に継承していくことは、現在を生きる私たちの重要な責務であると考えております。今後とも関係各位の格段の御理解御協力を賜りますようお願い申しあげます。

最後になりましたが、今回の発掘調査や報告書の作成にあたり、御助言、御協力をいただきました皆様に、心から感謝申し上げますとともに、本書が学術研究の場のみならず、広く生涯教育にも活用されんことを切に念願いたします。

1996年3月

米沢市教育委員会
教育長　相田　實

例　　言

1．本報告書は、平成元年度（第一次調査）から平成6年度（第八次調査）の期間で実施した発掘調査の成果をまとめたものである。

第Ⅰ次及び第Ⅱ次調査は、宅地造成に伴う調査、第Ⅲ次から第Ⅷ次は遺跡範囲確認調査であり、文化庁の国庫補助を受けて実施した。

2．発掘調査は、米沢市教育委員会が主体とり、大型竪穴住居跡確認及びその周辺の開発予定地域を中心に実施した。

3．第一次から第八次までの調査体制は下記の通りである。（敬称略、順不同）

●第Ⅰ・第Ⅱ次調査（平成元・2年度）

調査総括　二宮幸雄（社会教育課長）
調査担当　手塚　孝
調査主任　菊地政信、金子正廣
調　査　員　原　三郎、小林理香
作　業　員　皆川清助、中島国雄、遠藤昭一、藤守伊知郎、勝美文男
水野　哲、中村幸男、佐藤由美子、出口孝造、柳町昌孝
事　務　局　梅津幸保、小林伸一、山田　隆、山口恵美子

●第Ⅲ次調査　（平成2年度）

調査総括　小関　薫（文化課長）
調査担当　手塚　孝
調査主任　山田　隆
調査副主任　石渡　肇
調　査　員　菊地政信
作　業　員　原　三郎、中島国雄、出口孝造、遠藤昭一、皆川清助
水野　哲、横内昌彦、柳町昌孝、諸橋正一、菅野泰之
柴崎　造、五十嵐　拓
事　務　局　木村琢美、小林伸一、舟山弘行

●第Ⅳ次調査（平成2年度）

調査総括　小関　薫（文化課長）

調査担当　手塚　孝
調査主任　菊地政信
調査副主任　山田　隆、赤木博幸
調　査　員　原　三郎
作　業　員　五十嵐　拓、遠藤忠一、加藤文雄、窪寺己枝子、剣重金造
小浦文吉、斎藤明子、佐藤栄吉、佐藤能婦子、沢根英夫
水野　哲、須藤寅夫、鈴木由美子、皆川清助
事　務　局　木村琢美、小林伸一、舟山弘行

●第Ⅴ次調査（平成3年度）
調査総括　小関　薫（文化課長）
調査担当　手塚　孝
調査主任　菊地政信
調査副主任　月山隆弘
作　業　員　原　三郎、穴沢茂雄、安部ふみ子、石井よそ子、遠藤昭一
加藤文教、小浦文吉、小関晴雄、黒田よし子、武田房次郎
沢根英夫、佐藤栄吉、中島国雄、島貫六助、鈴木由美子
星　努
事　務　局　木村琢美、小林伸一、平間洋子、山田　隆

●第Ⅵ次調査（平成4年度）
調査総括　木村琢美（文化課長）
調査担当　手塚　孝
調査主任　菊地政信
調査副主任　月山隆弘
作　業　員　遠藤忠一、黒田よし子、小浦文吉、佐藤栄吉、沢根英夫
芳賀二雄
事　務　局　我妻淳一、小林伸一、平間洋子

●第Ⅶ次調査（平成5年度）
調査総括　木村琢美（文化課長）
調査担当　手塚　孝
調査主任　菊地政信
作　業　員　遠藤忠一、遠藤昭一、小浦文吉、黒田よし子、中島国雄
松本三郎、芳賀二雄、原　三郎、島貫六助、丸山トシ子

武田房次郎、菊地そのえ

事　務　局　　我妻淳一、月山隆弘

●第Ⅷ次調査（平成6年度）

調査総括　　舟山豊弘（文化課長）

調査担当　　手塚　孝

調査主任　　菊地政信

作　業　員　　遠藤忠一、小浦文吉、武田房次郎、菊地そのえ、平間洋子
松本三郎、丸山トシ子

事　務　局　　我妻淳一、月山隆弘

……

○調査指導　　芹沢長介、加藤　稔、小林達雄、川崎利夫、工藤雅樹、
岡村道雄、原田昌幸
文化庁、国立歴史民俗博物館、山形県教育委員会、
山形県立博物館、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
東北歴史資料館、栃木県立博物館、
㈶福島県文化センター、

○調査協力　　赤木伊勢吉、赤木友之、山田誠次郎、山田由子、丸山亥吉、
伊藤忠士、提　　菁、渡部重夫、米住建設㈱

4．挿図の縮尺は、各図面にスケールで示した。

5．本遺跡の調査成果については、既に現地説明会資料や概報等にその内容の一部が紹介されているが、本書の記載内容はそれらに優先するものである。

6．遺物は整理し、米沢市埋蔵文化財資料室（米沢市万世町桑山200番地）に一括保管している。

7．本書の作成は、手塚　孝、菊地政信が担当したが、全体的には手塚が総括した。編集は手塚、責任校正は我妻淳一がその責務にあたった。

凡　　例

1．本報告書の遺構・遺物については、次の略号を使用した。

ＨＢ－大型竪穴住居跡
ＨＹ－竪穴住居跡
ＤＹ－土壙
ＳＹ－集石遺構
ＧＹ－地床炉
ＰＹ－ピット
ＭＹ－埋設土器
ＢＺ－石器
ＡＺ－土器

2．石器実測図でのスクリーントーンは、磨滅痕を示し、縁辺の実線は、使用箇所を示した。

3．挿図の縮尺は、土器拓影図：３分の１
実　測　図：３分の１・４分の１
石器実測図：1.5分の１
礫器実測図：３分の１とした。
復元時の写真図版については縮尺不同とし、その他はスケールで示した。

4．挿図の方位は真北に統一してある。

5．石器の計測については最大幅と最長を計測した。

6．石器の分類については各群について実測図を作成し、細類を加えた。

7．石材に関しては『原色岩石図鑑』（益富寿之助著、1979年発行）を参考にした。

8．土色については『新版標準土色帳』（㈶日本色彩研究所、1970年発行）を使用した。

本　文　目　次

第１章　一ノ坂遺跡の概要 …… 1
　第１節　遺跡の立地と環境 …… 1
　第２節　調査の経緯 …… 1
第２章　第Ⅰ次調査 …… 4
　第１節　調査の経過 …… 4
　第２節　検出された遺構 …… 4
　　Ⅰ　大型住居跡 …… 6
　　Ⅱ　ＨＢ１の層序 …… 6
　　1）第Ⅰ層面の遺物 …… 9
　　２）第Ⅱ層面の遺物 …… 9
　　３）第Ⅲ層面の遺物 …… 12
　　４）第Ⅳ層面の遺物 …… 33
　　Ⅲ　ＨＢ１内の遺構 …… 34
　　１）地床炉 …… 34
　　２）土　壙 …… 34
　　３）溝状遺構 …… 37
　　４）その他の遺構 …… 37
　第３節　検出された遺物 …… 40
　　Ⅰ　出土土器の概要 …… 40
　　１．地文の分類 …… 59
　　１）ループ文 …… 59
　　２）無節縄文 …… 61
　　３）単節縄文 …… 61
　　４）複節縄文 …… 62
　　５）撚糸文 …… 62
　　６）組紐縄文 …… 62
　　７）結束縄文 …… 62
　　２．文様表出技法 …… 62
　　１）竹管文 …… 63
　　２）突刺文 …… 63
　　３）沈線文 …… 63
　　４）貼付文 …… 63
　　３．器形の分類 …… 63
　　４．ループ施文等による無文区画（沈線）の文様帯分類 …… 65
　　１）Ⅰ類文様帯 …… 67
　　２）Ⅱ類文様帯 …… 67
　　３）Ⅲ類文様帯 …… 67
　　４）Ⅳ類文様帯 …… 68
　　５）Ⅴ類文様帯 …… 68
　　６）Ⅵ類文様帯 …… 70
　　７）Ⅶ類文様帯 …… 70
　　８）Ⅷ類文様帯 …… 72
　　９）Ⅸ類文様帯 …… 73
　　10）Ⅹ類文様帯 …… 73
　　５．出土土器の分類 …… 76
　　１）一ノ坂遺跡の出土土器分類基準 …… 76
　　２）一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器の分類 …… 78
　　Ⅱ　出土石器の概要 …… 85
　　１．剥片石器の分類 …… 87
　　１）Ⅰ群石器（石鏃） …… 87
　　２）Ⅱ群石器（石匙） …… 105

3）Ⅲ群石器（両尖匕首） …… 152
4）Ⅳ群石器（石銛） …… 154
5）Ⅴ群石器（石錐） …… 188
6）Ⅵ群石器（石篦） …… 197
7）Ⅶ群石器（掻器） …… 206
8）Ⅷ群石器（石核） …… 206
9）Ⅸ群石器（磨製石斧） …… 206
2．石製品 …… 211
1）耳飾り …… 211
2）臼　玉 …… 211
3．礫　器 …… 211
1）凹　石 …… 211
2）磨　石 …… 211
第4節　要　約 …… 292
第3章　第Ⅱ次調査～Ⅷ次調査 …… 293
第1節　第Ⅱ次調査 …… 293
Ⅰ　調査の経過 …… 293
Ⅱ　検出された遺構 …… 293
Ⅲ　検出された遺物 …… 293
Ⅳ　要　約 …… 293
第2節　第Ⅲ次調査 …… 295
Ⅰ　調査の経過 …… 295
Ⅱ　検出された遺構 …… 295
1）土　壙 …… 295
2）集石遺構 …… 303
Ⅲ　検出された遺物 …… 303
1）出土土器 …… 303
2）出土土器の分類 …… 303
3）出土石器 …… 304
4）出土石器の分類 …… 304
5）礫　器 …… 305
Ⅳ　要　約 …… 305
第3節　第Ⅵ次調査 …… 316
Ⅰ　調査の経過 …… 316
Ⅱ　検出された遺構 …… 316
1）竪穴住居跡 …… 318
Ⅲ　検出された遺物 …… 327
1）出土土器 …… 327
2）出土土器の分類 …… 327
3）出土石器 …… 329
4）出土石器の分類 …… 329
5）礫　器 …… 330
Ⅳ　要　約 …… 330
第4節　第Ⅴ次調査 …… 348
Ⅰ　調査の経過 …… 348
Ⅱ　検出された遺構 …… 348
1）竪穴住居跡 …… 348
2）土　壙 …… 363
Ⅲ　検出された遺物 …… 363
1）出土土器 …… 363
2）出土土器の分類 …… 364
3）出土石器 …… 365
4）出土石器の分類 …… 365
5）礫　器 …… 366
Ⅳ　要　約 …… 367
第5節　第Ⅵ次調査 …… 387
Ⅰ　調査の経過 …… 387

Ⅱ　検出された遺構 …… 387
1）竪穴住居跡 …… 390
2）土　壙 …… 392
Ⅲ　検出された遺物 …… 392
1）出土土器 …… 392
2）出土土器の分類 …… 392
3）出土石器 …… 393
4）出土石器の分類 …… 393
5）礫　器 …… 394
Ⅳ　要　約 …… 395
第6節　第Ⅶ次調査 …… 405
Ⅰ　調査の経過 …… 405
Ⅱ　検出された遺構 …… 405
1）竪穴住居跡 …… 408
2）その他の遺構 …… 412
Ⅲ　検出された遺物 …… 414
1）出土土器 …… 414
2）出土土器の分類 …… 414
3）出土石器 …… 415
4）出土石器の分類 …… 415
5）礫　器 …… 416
Ⅳ　要　約 …… 417
第7節　第Ⅷ次調査 …… 431
Ⅰ　調査の経過 …… 431
Ⅱ　検出された遺構 …… 431
1）トレンチ調査 …… 431
2）ボーリング調査 …… 434
Ⅲ　検出された遺物 …… 439
Ⅳ　要　約 …… 439
第3章　総　括 …… 441
第1節　一ノ坂遺跡の集落 …… 441
第2節　一ノ坂遺跡の土器 …… 445
第3節　一ノ坂遺跡の石器 …… 449
Ⅰ　米沢盆地の原石 …… 450
Ⅱ　一ノ坂技法の特徴 …… 454
第4節　結　語 …… 456
報告書抄録 …… 457
参考文献 …… 458

挿　図　目　次

第1図　一ノ坂遺跡周辺の遺跡分布図 …… 2
第2図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査グリット配図 …… 5
第3図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１全体図 …… 7～8
第4図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１セクション柱状図(1) …… 10
第5図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１セクション柱状図(2) …… 11
第6図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ａ区Ⅰ層遺物分布図 …… 13
第7図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｂ区Ⅰ層遺物分布図 …… 14
第8図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｃ区Ⅰ層遺物分布図 …… 15
第9図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｄ区Ⅰ層遺物分布図 …… 16
第10図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｍ区Ⅰ層遺物分布図 …… 17

第 11 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ａ区Ⅱ層遺物分布図 …… 18
第 12 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｂ区Ⅱ層遺物分布図 …… 19
第 13 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｃ区Ⅱ層遺物分布図 …… 20
第 14 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｄ区Ⅱ層遺物分布図 …… 21
第 15 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｍ区Ⅱ層遺物分布図 …… 22
第 16 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ａ区Ⅲ層遺物分布図 …… 23
第 17 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｂ区Ⅲ層遺物分布図 …… 24
第 18 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｃ区Ⅲ層遺物分布図 …… 25
第 19 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｄ区Ⅲ層遺物分布図 …… 26
第 20 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｍ区Ⅲ層遺物分布図 …… 27
第 21 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ａ区Ⅳ層遺物分布図 …… 28
第 22 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｂ区Ⅳ層遺物分布図 …… 29
第 23 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｃ区Ⅳ層遺物分布図 …… 30
第 24 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｄ区Ⅳ層遺物分布図 …… 31
第 25 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｍ区Ⅳ層遺物分布図 …… 32
第 26 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査遺構平面図(1) …… 35
第 27 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査遺構平面図(2) …… 36
第 28 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器実測図(1) …… 41
第 29 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器実測図(2) …… 42
第 30 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器実測図(3) …… 43
第 31 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器実測図(4) …… 44
第 32 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(1) …… 45
第 33 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(2) …… 46
第 34 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(3) …… 47
第 35 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(4) …… 48
第 36 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(5) …… 49
第 37 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(6) …… 50
第 38 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(7) …… 51
第 39 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(8) …… 52
第 40 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(9) …… 53
第 41 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(10) …… 54
第 42 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(11) …… 55
第 43 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(12) …… 56
第 44 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(13) …… 57
第 45 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(14) …… 58
第 46 図　一ノ坂遺跡出土土器ループ施文の分類模式図 …… 60
第 47 図　一ノ坂遺跡出土土器器形分類図 …… 64
第 48 図　ループ施文による無文区画の文様帯模式図(1) …… 66
第 49 図　ループ施文による無文区画の文様帯模式図(2) …… 69
第 50 図　ループ施文による無文区画の文様帯模式図(3) …… 71
第 51 図　ループ施文による無文区画の文様帯模式図(4) …… 74
第 52 図　沈線文・突刺文等による文様帯模式図 …… 75
第 53 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(1) …… 94
第 54 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(2) …… 95
第 55 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(3) …… 96
第 56 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(4) …… 97
第 57 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(5) …… 98
第 58 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(6) …… 99
第 59 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(7) …… 100
第 60 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(8) …… 101
第 61 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(9) …… 102
第 62 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(10) …… 103
第 63 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(11) …… 104
第 64 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(1) …… 115
第 65 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(2) …… 116
第 66 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(3) …… 117
第 67 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(4) …… 118

第 68 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(5) …… 119
第 69 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(6) …… 120
第 70 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(7) …… 121
第 71 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(8) …… 122
第 72 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(9) …… 123
第 73 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(10) …… 124
第 74 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(11) …… 125
第 75 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(12) …… 126
第 76 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(13) …… 127
第 77 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(14) …… 128
第 78 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(15) …… 129
第 79 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(16) …… 130
第 80 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(17) …… 131
第 81 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(18) …… 132
第 82 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(19) …… 133
第 83 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(20) …… 134
第 84 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(21) …… 135
第 85 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(22) …… 136
第 86 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(23) …… 137
第 87 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(24) …… 138
第 88 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(25) …… 139
第 89 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(26) …… 140
第 90 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(27) …… 141
第 91 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(28) …… 142
第 92 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(29) …… 143
第 93 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(30) …… 144
第 94 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(31) …… 145
第 95 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(32) …… 146
第 96 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(33) …… 147
第 97 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(34) …… 148
第 98 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(35) …… 149
第 99 図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(36) …… 150
第100図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(37) …… 151
第101図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(1) …… 155
第102図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(2) …… 156
第103図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(3) …… 157
第104図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(4) …… 158
第105図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(5) …… 159
第106図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(6) …… 160
第107図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(7) …… 161
第108図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(8) …… 162
第109図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(9) …… 163
第110図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(10) …… 164
第111図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(11) …… 165
第112図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(12) …… 166
第113図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(13) …… 167
第114図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(14) …… 168
第115図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(15) …… 169
第116図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(16) …… 170
第117図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(17) …… 171
第118図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(18) …… 172
第119図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅲ群石器実測図(19) …… 173
第120図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅳ群石器実測図(1) …… 176
第121図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅳ群石器実測図(2) …… 177
第122図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅳ群石器実測図(3) …… 178
第123図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅳ群石器実測図(4) …… 179
第124図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅳ群石器実測図(5) …… 180

第125図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅳ群石器実測図(6) …… 181
第126図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅳ群石器実測図(7) …… 182
第127図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅳ群石器実測図(8) …… 183
第128図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅳ群石器実測図(9) …… 184
第129図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅳ群石器実測図(10) …… 185
第130図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅳ群石器実測図(11) …… 186
第131図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅳ群石器実測図(12) …… 187
第132図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅴ群石器実測図(1) …… 189
第133図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅴ群石器実測図(2) …… 190
第134図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅴ群石器実測図(3) …… 191
第135図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅴ群石器実測図(4) …… 192
第136図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅴ群石器実測図(5) …… 193
第137図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅴ群石器実測図(6) …… 194
第138図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅴ群石器実測図(7) …… 195
第139図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅴ群石器実測図(8) …… 196
第140図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅵ群・Ⅶ群石器実測図(1) …… 198
第141図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅵ群・Ⅶ群石器実測図(2) …… 199
第142図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅵ群・Ⅶ群石器実測図(3) …… 200
第143図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅵ群・Ⅶ群石器実測図(4) …… 201
第144図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅵ群・Ⅶ群石器実測図(5) …… 202
第145図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅵ群・Ⅶ群石器実測図(6) …… 203
第146図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅵ群・Ⅶ群石器実測図(7) …… 204
第147図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅵ群・Ⅶ群石器実測図(8) …… 205
第148図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅷ群石器実測図(1) …… 207
第149図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅷ群石器実測図(2) …… 208
第150図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅷ群石器実測図(3) …… 209
第151図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅸ・Ⅹ群石器実測図(1) …… 210
第152図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅸ・Ⅹ群石器実測図(2) …… 212
第153図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(1) …… 239
第154図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(2) …… 240
第155図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(3) …… 241
第156図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(4) …… 242
第157図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(5) …… 243
第158図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(6) …… 244
第159図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(7) …… 245
第160図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(8) …… 246
第161図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(9) …… 247
第162図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(10) …… 248
第163図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(11) …… 249
第164図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(12) …… 250
第165図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(13) …… 251
第166図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(14) …… 252
第167図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(15) …… 253
第168図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(16) …… 254
第169図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(17) …… 255
第170図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(18) …… 256
第171図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(19) …… 257
第172図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(20) …… 258
第173図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(21) …… 259
第174図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(22) …… 260
第175図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(23) …… 261
第176図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(24) …… 262
第177図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(25) …… 263
第178図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(26) …… 264
第179図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土礫器実測図(27) …… 265
第180図　薄形剥片を素材とする石鏃工程図 …… 272
第181図　一ノ坂技法による石鏃製作工程図(1) …… 273

第182図　一ノ坂技法による石鏃製作工程図(2) …… 274
第183図　一ノ坂技法による石匙製作工程図(1)〈両面調整〉 …… 275
第184図　一ノ坂技法による石匙製作工程図(2)〈両面調整〉 …… 276
第185図　一ノ坂技法による石匙製作工程図(1)〈片面調整〉 …… 277
第186図　一ノ坂技法による石匙製作工程図(2)〈片面調整〉 …… 278
第187図　一ノ坂技法による石匙製作工程図(3)〈片面調整〉 …… 279
第188図　薄形剥片を素材とする石匙工程図(1) …… 280
第189図　薄形剥片を素材とする石匙工程図(2) …… 281
第190図　一ノ坂技法による両尖七首製作工程図(1) …… 282
第191図　一ノ坂技法による両尖七首製作工程図(2) …… 283
第192図　一ノ坂技法による石銛製作工程図(1) …… 284
第193図　一ノ坂技法による石銛製作工程図(2) …… 285
第194図　一ノ坂遺跡Ⅴ群石器分類図 …… 286
第195図　一ノ坂遺跡Ⅵ群石器分類図 …… 287
第196図　一ノ坂遺跡Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ群石器分類図 …… 288
第197図　一ノ坂遺跡Ⅹ群石器分類図 …… 289
第198図　剥片・剥離分類図 …… 290
第199図　礫器分類図 …… 290
第200図　一ノ坂技法による石器製作工程図 …… 291
第201図　一ノ坂遺跡第Ⅱ次調査トレンチ配図 …… 294
第202図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次～第Ⅳ次調査グリット配図 …… 296
第203図　一ノ坂遺跡第Ⅲ次調査全体図 …… 297
第204図　一ノ坂遺跡第Ⅲ次調査土壙平面図 …… 299
第205図　一ノ坂遺跡第Ⅲ次調査ＤＹ１平面図 …… 300
第206図　一ノ坂遺跡第Ⅲ次調査ＤＹ２平面図 …… 301
第207図　一ノ坂遺跡第Ⅲ次調査ＤＹ３平面図 …… 302
第208図　一ノ坂遺跡第Ⅲ次調査出土土器拓影・石器実測図(1) …… 306
第209図　一ノ坂遺跡第Ⅲ次調査出土土器拓影・石器実測図(2) …… 307
第210図　一ノ坂遺跡第Ⅲ次調査出土土器拓影・石器実測図(3) …… 308
第211図　一ノ坂遺跡第Ⅲ次調査出土土器拓影・石器実測図(4) …… 309
第212図　一ノ坂遺跡第Ⅲ次調査出土礫器実測図(1) …… 310
第213図　一ノ坂遺跡第Ⅲ次調査出土礫器実測図(2) …… 311
第214図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査遺構全体図 …… 317
第215図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査ＨＹ１平面図 …… 319
第216図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査ＨＹ２床面直上平面図 …… 320
第217図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査ＨＹ２床面平面図 …… 321
第218図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査ＨＹ３平面図 …… 323
第219図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査ＨＹ４平面図 …… 324
第220図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査ＨＹ５平面図 …… 326
第221図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査出土土器拓影・石器実測図(1) …… 331
第222図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査出土土器拓影・石器実測図(2) …… 332
第223図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査出土土器拓影・石器実測図(3) …… 333
第224図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査出土土器拓影・石器実測図(4) …… 334
第225図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査出土土器拓影・石器実測図(5) …… 335
第226図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査出土土器拓影・石器実測図(6) …… 336
第227図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査出土土器拓影・石器実測図(7) …… 337
第228図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査出土土器拓影・石器実測図(8) …… 338
第229図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査出土土器拓影・石器実測図(9) …… 339
第230図　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査出土土器拓影・石器実測図(10) …… 340
第231図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次～第Ⅴ次調査グリット配図 …… 349
第232図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次東側調査区遺構全体図 …… 350
第233図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査ＨＹ６平面図 …… 351
第234図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査ＨＹ７平面図 …… 353
第235図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査ＨＹ８平面図 …… 355
第236図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査ＨＹ９平面図 …… 356
第237図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査ＨＹ10平面図 …… 358
第238図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査ＨＹ12平面図 …… 360

第239図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査ＨＹ11・13平面図 …… 361
第240図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査ＤＹ４平面図 …… 362
第241図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土土器拓影・石器実測図(1) …… 368
第242図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土土器拓影・石器実測図(2) …… 369
第243図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土土器拓影・石器実測図(3) …… 370
第244図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土土器拓影・石器実測図(4) …… 371
第245図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土土器拓影・石器実測図(5) …… 372
第246図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土土器拓影・石器実測図(6) …… 373
第247図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土土器拓影・石器実測図(7) …… 374
第248図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土土器拓影・石器実測図(8) …… 375
第249図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土土器拓影・石器実測図(9) …… 376
第250図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土土器拓影・石器実測図(10) …… 377
第251図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土土器拓影・石器実測図(11) …… 378
第252図　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土土器拓影・石器実測図(12) …… 379
第253図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次～第Ⅵ次調査グリット配図 …… 388
第254図　一ノ坂遺跡第Ⅵ次調査遺構全体図 …… 389
第255図　一ノ坂遺跡第Ⅵ次調査ＨＹ14平面図 …… 391
第256図　一ノ坂遺跡第Ⅵ次調査出土土器拓影・石器実測図(1) …… 396
第257図　一ノ坂遺跡第Ⅵ次調査出土土器拓影・石器実測図(2) …… 397
第258図　一ノ坂遺跡第Ⅵ次調査出土土器拓影・石器実測図(3) …… 398
第259図　一ノ坂遺跡第Ⅵ次調査出土土器拓影・石器実測図(4) …… 399
第260図　一ノ坂遺跡第Ⅵ次調査出土土器拓影・石器実測図(5) …… 400
第261図　一ノ坂遺跡第Ⅵ次調査出土土器拓影・石器実測図(6) …… 401
第262図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次～第Ⅶ次調査グリット配図 …… 406
第263図　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査遺構全体図 …… 407
第264図　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査ＨＹ17平面図 …… 409
第265図　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査ＨＹ14・ＨＹ17平面図 …… 410
第266図　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査出土土器拓影・石器実測図(1) …… 418
第267図　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査出土土器拓影・石器実測図(2) …… 419
第268図　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査出土土器拓影・石器実測図(3) …… 420
第269図　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査出土土器拓影・石器実測図(4) …… 421
第270図　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査出土土器拓影・石器実測図(5) …… 422
第271図　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査出土土器拓影・石器実測図(6) …… 423
第272図　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査出土土器拓影・石器実測図(7) …… 424
第273図　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査出土土器拓影・石器実測図(8) …… 425
第274図　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査出土土器拓影・石器実測図(9) …… 426
第275図　一ノ坂遺跡第Ⅷ次調査区全体図 …… 432
第276図　一ノ坂遺跡第Ⅷ次調査Ｂトレンチ遺構平面図 …… 433
第277図　一ノ坂遺跡第Ⅷ次調査土層想定図(1) …… 435
第278図　一ノ坂遺跡第Ⅷ次調査土層想定図(2) …… 436
第279図　一ノ坂遺跡第Ⅷ次調査土層想定図(3) …… 438
第280図　一ノ坂遺跡遺跡範囲図 …… 442
第281図　一ノ坂遺跡遺構全体図 …… 443
第282図　一ノ坂遺跡ＨＢ１復元推定図 …… 444
第283図　縄文前期初頭の土器編年図 …… 446
第284図　珪質頁岩産出地分布図 …… 451

付　表　目　次

第 1 表　ＢＹ１第Ⅰ層出土遺物類計表 …… 9
第 2 表　ＢＹ１第Ⅱ層出土遺物類計表 …… 12
第 3 表　ＢＹ１第Ⅲ層出土遺物類計表 …… 12
第 4 表　ＢＹ１第Ⅳ層出土遺物類計表 …… 33
第 5 表　ＢＹ１出土遺物総計表 …… 33
第 6 表　第Ⅰ次調査の遺構計測表 …… 38
第 7 表　第Ⅰ次調査の遺構出土遺物総計表 …… 39
第 8 表　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器総計表 …… 40
第 9 表　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器観察表 …… 81
第 10 表　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土《フレーク》総計表 …… 85
第 11 表　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土《チップ》総計表 …… 85
第 12 表　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土《分類石器》総計表 …… 86
第 13 表　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土《石器分類別》総計表 …… 87
第 14 表　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土《Ⅰ群石器》総計表 …… 87
第 15 表　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土《Ⅱ群石器》総計表 …… 105
第 16 表　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土《Ⅴ群ａ類石器》総計表 …… 188
第 17 表　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土《Ⅴ群ｂ類石器》総計表 …… 188
第 18 表　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土《Ⅴ群ｃ類石器》総計表 …… 197
第 19 表　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土《Ⅴ群ｄ類石器》総計表 …… 197
第 20 表　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土石器計測観察表 …… 213
第 21 表　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１出土礫器分類観察表 …… 266
第 22 表　一ノ坂遺跡第Ⅲ次調査出土土器観察表 …… 312
第 23 表　一ノ坂遺跡第Ⅲ次調査出土石器計測観察表 …… 313
第 24 表　一ノ坂遺跡第Ⅲ次調査出土礫器分類計測表 …… 315
第 25 表　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査出土土器観察表 …… 341
第 26 表　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査出土石器計測観察表 …… 344
第 27 表　一ノ坂遺跡第Ⅳ次調査出土礫器分類計測表 …… 347
第 28 表　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土土器観察表 …… 380
第 29 表　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土石器計測観察表 …… 384
第 30 表　一ノ坂遺跡第Ⅴ次調査出土礫器分類計測表 …… 386
第 31 表　一ノ坂遺跡第Ⅵ次調査出土土器観察表 …… 402
第 32 表　一ノ坂遺跡第Ⅵ次調査出土石器計測観察表 …… 403
第 33 表　一ノ坂遺跡第Ⅵ次調査出土礫器分類計測表 …… 404
第 34 表　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査出土土器観察表 …… 427
第 35 表　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査出土石器計測観察表 …… 429
第 36 表　一ノ坂遺跡第Ⅶ次調査出土礫器分類計測表 …… 430
第 37 表　地文類別対比表 …… 448
第 38 表　原石周辺の遺跡地名表 …… 452
第 39 表　一ノ坂技法による石器製作概念表 …… 455

第１章　一ノ坂遺跡の概要

第１節　遺跡の位置と地形『第１図』

本遺跡は、米沢市矢来一丁目1073-4番地他に所在する。現状は、さくらんぼ・りんご等の果樹園が大半で、他に畑地、宅地、原野となっている。遺跡の立地する地形は、笹野（斜平）丘陵の北端部に位置する標高451.6ｍの御成山から北東に張り出した尾根の山麓より、丘陵の侵食作用によって東側に堆積した緩やかな傾斜面が南北に延びている。この台地の縁辺部には、南北から西側にかけて発達した段丘が丘陵に沿って顕著にみられるが、これらはかって松川と鬼面川が氾濫を繰返して形成された河岸段丘とみられている。

遺跡は、この台地に立地しており、笹野丘陵から流れる左右の小さな沢と東の河岸段丘が複合したことによって小規模な舌状台地を示している。

遺跡の範囲としては、標高257ｍ～260ｍを有する舌状台地の東側一帯にあたり、これまでの分布調査と試掘調査から南北約180ｍ、東西約90ｍの範囲と想定される。また、一ノ坂遺跡周辺は縄文時代を中心とした数多くの遺跡が分布する地域でもあり、一ノ坂遺跡から笹野丘陵の山麓を南進する一帯をみると李山地区の窪遺跡を始め、繰返遺跡・地蔵園遺跡など約30箇所の遺跡が存在している。さらに、一ノ坂遺跡の西側にも鬼面川によって形成された河岸段丘に沿って、生蓮寺遺跡・舘山ａ～ｃ遺跡などの縄文時代を中心とした10箇所ほどの遺跡が確認されている。

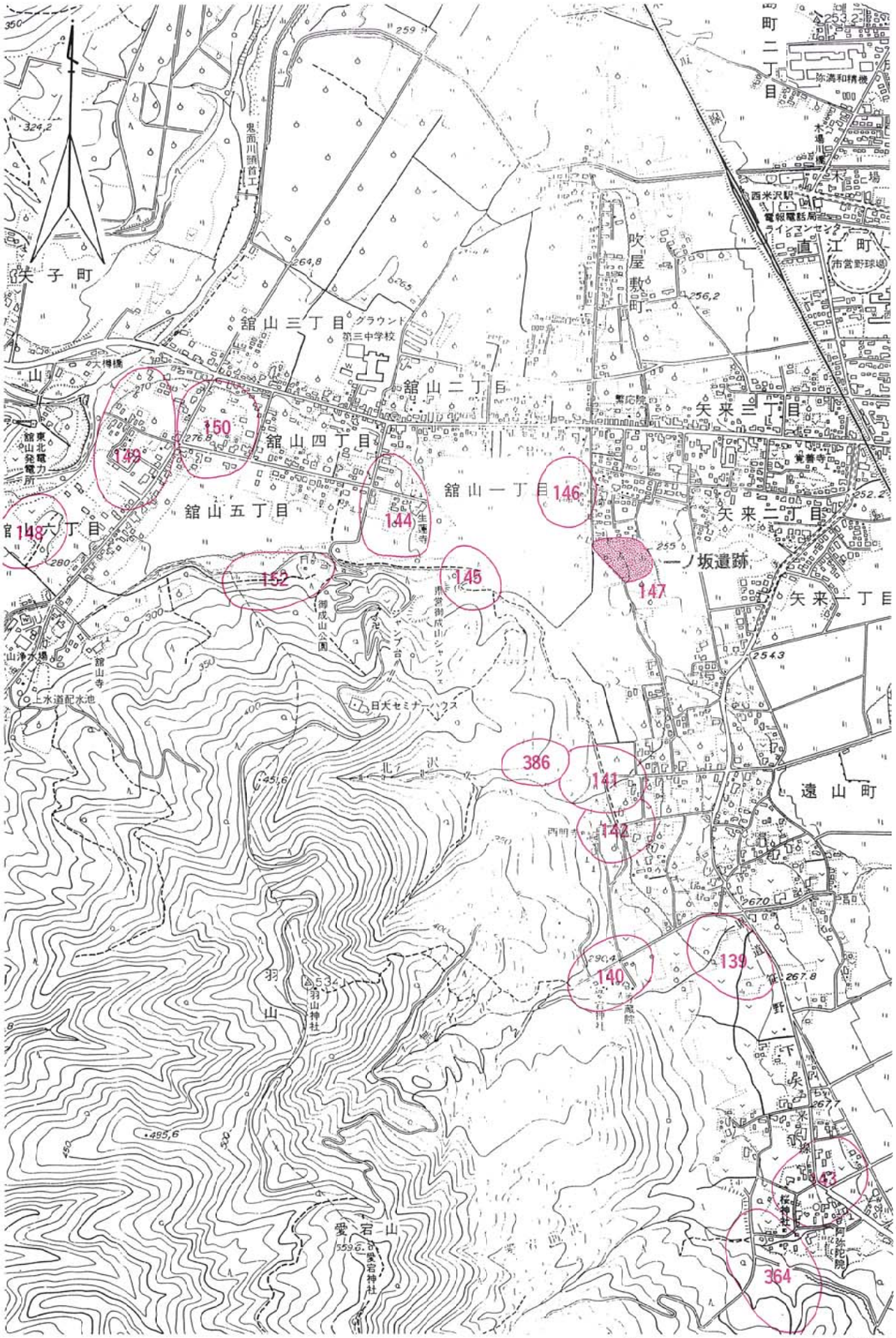
これらの遺跡は、縄文時代の前期～後期にかけての遺跡を中心とするが、伊達氏ゆかりの舘山城が隣接していることもあって、城跡・塚群・廃寺跡などの中世遺跡も数多く分布しているのも特徴である。

第２節　調査の経緯

平成元年度（1989）年４月に本遺跡の一部に宅地造成の申請が米沢市建設部建築課に提出されたのを受け、米沢市教育委員会が申請地一帯の試掘を実施したところ、縄文時代に係る多量の遺物が検出したことから、関係者と協議を重ね緊急発掘調査を実施することになった。

調査は、平成元年５月12日から同年６月30日の期間で行い、順次進めたところ、縄文前期初頭に属する全長43.5ｍの大型竪穴住居跡１棟と多量の遺物を検出した。

出土した遺物は、住居内部を中心に約200万点に及ぶもので、他に類を見ないものであった。特に石器群は、石鏃・石銛・両尖七首・石匙の４機種を中心にしたものであり、その製作過程



第１図　一ノ坂遺跡周辺の遺跡分布図

を示す製作途中の石器を始め、製作断念の石器、製作失敗の石器、完成石器と剥片を合わせると膨大な量の石器が住居跡内部の整地層より検出されている。しかも、石器群は炭化クルミと砂等を加えて第Ⅰ層～第Ⅳ層の4枚の整地層として認められ、まさに意図的に敷き詰められたものであった。

このことから、一ノ坂遺跡で確認された大型竪穴住居跡は石器を専門に製作していた大型工房跡と判明した。

しかも、これまでに確認された全国の大型住居跡のほとんどは、性格が解明されたものは少ないことから、一ノ坂遺跡の石器製作工房跡の発見の意義は大きく、縄文時代の生産と大型住居跡の構造や縄文社会の経済を考える上で極めて注目される資料となった。

こうした成果を鑑み、米沢市教育委員会は、地権者の赤木・山田両氏と協議を重ね、両地権者の全面的な協力と文化庁、県文化課の指導を受けながら、大型住居跡を中心とした550㎡の範囲を現状保存とする措置を行った。

一方、一ノ坂遺跡全体の性格と遺跡の範囲、遺構の分布密度を把握するために平成2年度からは、国庫補助の採択を受けて平成6年度（第Ⅱ次調査～第Ⅷ次調査）に亘る調査を実施している。

この中で、平成3年度の第Ⅲ次・Ⅳ次の調査では、臼玉と石器を埋納した墓壙の確認と平成元年に検出された大型竪穴住居にほぼ並行すると推測される時期の一般居住地域を確認している。住居跡群は、一辺が3ｍ～5ｍ前後を示すもので、長方形プランを主体とした小規模な竪穴住居跡群が3～4期の切り合い関係を示しながら検出されている。

平成4年及び5年の第Ⅴ次・第Ⅵ次調査では、これまでの縄文時代の遺跡としては前例のない9棟の竪穴住居跡を一直線に配列した全長約50ｍに及ぶ「連房式竪穴住居跡」が検出された。この遺構は、第Ⅲ次・第Ⅳ次調査で検出された竪穴住居群の下層面からの確認で、ほぼ大型竪穴住居の整地面の第Ⅳ層に並行するものと考えている。

最終年度となる平成6年度の第Ⅷ次調査では、遺跡の南側を中心としたボーリング探査の中で新たな大型竪穴住居跡を確認するなど、貴重な成果をあげることができた。

以下、簡単に各調査次に分けてその概要を記す。

第2章　第Ⅰ次調査

第1節　調査の経過『第2図』

調査は、宅地造成範囲と取付け道路を含む約800㎡を対象として平成元年5月12日～同年6月30日の予定で着手した。調査にあたり、河岸段丘と段丘の下部を区分するために段丘の下をA～D・M区、段丘の上をE～L・N～Sと8ｍ×8ｍのグリットを設定する。重機による表土剥離を5月12日、面整理を5月12日～5月16日まで行い、5月18日からは精査を進めたところ、多量の遺物が段丘の下場に沿って検出された。

一方、段丘の上部は砂利層と礫層であることや表土が浅く、一部後世の撹乱を受けていることもあって明確な遺構は認められなかった。従って、遺構・遺物が密集する段丘の下場を中心に調査を進めることにした。5月23日からは、第2層を撤去し、第3層上面で遺構の検出にあたった。

確認面が黒褐色土であるため遺構の確認は、苦労を要したが、調査区の中央にに沿って溝状の遺構が細長く東西に認められた。しかも、遺構確認面からは石器の剥片、チップ、炭化物が異常なほどに混入していることから竪穴住居跡が重複する可能性が高いとの判断で、慎重にプラン確認作業を5月31日まで行った。しかし、遺構の切り合い関係は認められず、大型溝状遺構としてA～Dの4グリットにベルトを残し、層位ごとに掘り下げたところ大型の竪穴住居跡であることが判明した。しかも住居跡はさらに東側に延びることから8ｍ×10ｍの拡張M区を新たに設定しする。

さらに調査が進む段階で、住居跡の南側に隣接して排水溝と推測される溝状遺構（ＫＹ27）も確認された。6月1日からは大型竪穴住居跡（ＢＨ１）の内部の覆土の掘り下げを第Ⅰ層～第Ⅳ（Ｆ１～Ｆ４）の順で進め、重要遺物は測点・記録を行い、住居跡内部の土層は全てポリ袋に収納し採取した。

6月20日からは住居跡の床面を主体に精査を行い、柱穴・炉跡・溝・土壙等の確認と掘り下げ、並行してセクシヨン図・遺物出土平面図・遺構平面図・写真撮影と進め、6月30日の現地説明会をもって終了した。

第2節　検出された遺構

第Ⅰ次調査で検出された遺構は、河岸段丘の下場に沿って認められた大型竪穴住居跡と住居内外に付随する土壙等の施設、それに明治頃と推測される集石土壙、風倒木壙である。ここで

第２図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査グリット配図

は、大型住居跡と付随遺構に大別し、その概要について述べることにする。

Ⅰ　大型竪穴住居跡（ＨＢ１）『第３図～第25図』

２層面を除去した面、つまり３層上面のグリットＡ～Ｄ・Ｍ区にかけて検出されたもので、ほぼ東西方向に主軸長を示す全長43.5ｍの竪穴住居跡である。平面プランは両端が丸味を有した長楕円形をなし、幾分北側寄りに外曲気味に反る形態となっている。住居跡の幅はＡ区とＭ区が3.9ｍ～4.1ｍ、Ｂ区付近で3.7ｍ～3.9ｍ、Ｃ区付近が3.4ｍ～3.8ｍ、Ｄ区付近で3.4ｍ～3.8ｍと住居跡の両端がやや広く、中央にかけて若干狭くなるのを特徴とする。

柱穴は、壁柱穴を主体にほぼ１ｍ前後と比較的等間隔に配列され、Ｐ１～Ｐ90と左右45本を対象に90本を有している。柱の大きさとしては、15cm～30cm、深さ25cm～45cmをなし、住居壁から内側に58°～68°の傾きを示していた。

壁の深さはＣ区・Ｄ区が28cm前後、Ａ区・Ｂ区・Ｍ区が21cm～25cmを確認面から床面までを測る。

炉は、中央部からやや南寄りに配置され、西側よりＧＹ14・ＧＹ12・ＧＹ10・ＤＹ４・ＤＹ20・ＤＹ17の６個所の地床炉が認められているが、後述する整地層第Ⅰ層～第Ⅳ層（Ｆ１～Ｆ４）の第Ⅰ層面まで機能していたのはＧＹ14・ＧＹ12・ＧＹ10の３基であった。ちなみに、第Ⅱ層面にはＤＹ14を加えた４基、第Ⅲ層面はＤＹ17を加えた５基となり、床面の６基から整地層が増すごとに東側より炉跡が減少することになる。

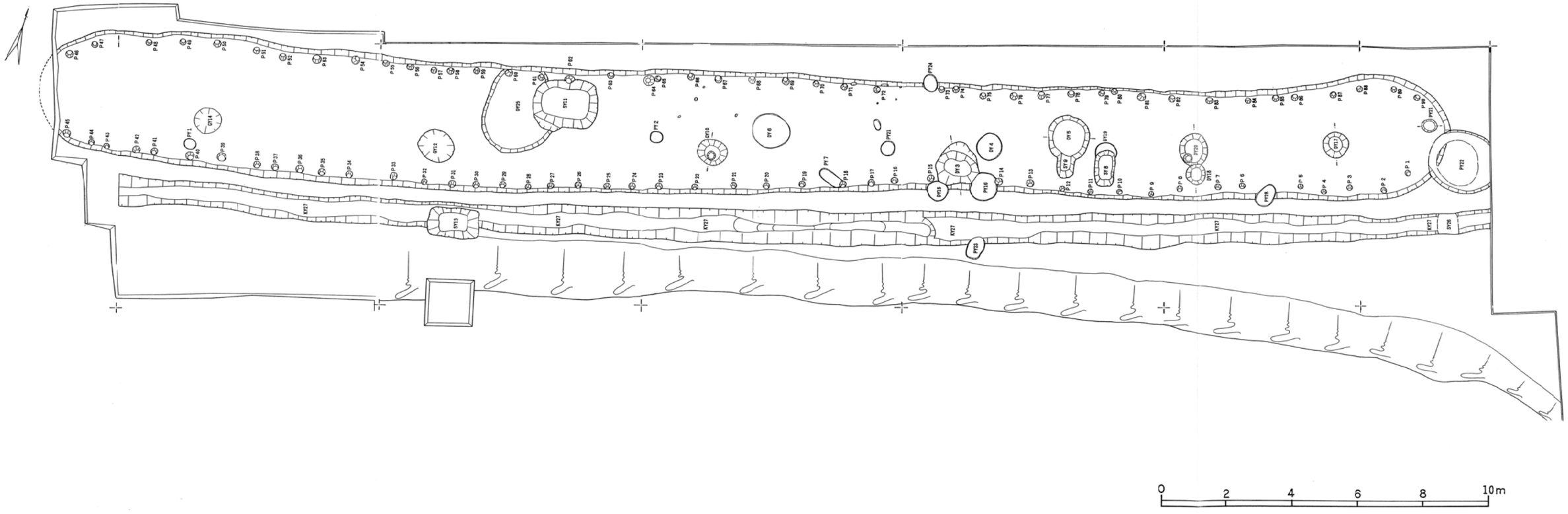
床面は、各整地層面から堀込まれた遺構がみられるが、ほぼ平坦で、全体的に西側から東にかけてやや傾斜を示している程度である。床面を基準とした比高差は、西端と東端では僅か25cmであった。

Ⅱ　ＨＢ１の層序と遺物

住居跡の内部には前述したように４枚の整地がなされている。各整地層の手法は、剥片を中心とした遺物層に炭化クルミを砕いた炭化層を敷き、さらに微砂質の砂質層で覆う３枚の層を基本としている。遺物を混合した層の厚さは各層序と区によって一定しないが、炭化クルミは0.5cm～2.2cm、砂質層は0.3cm～2.5cm前後を示している。

ＢＨ１出土の遺物としては、整地層位やグリットによって異なっているが全体的なグリット内での出土数で要約するとＢ区が遺物全体の約半分以上を占める1,139,936点、次いでＭ区の294,117点、Ｄ区の256,265点、Ａ区の215,133点、Ｃ区の136,954点となっていることからＢＨ１の空間としてはＢ区の依存する割合が多く用いられたものと考えられる。

ここでは各グリットごとに整地層の特徴や検出遺物の状況について要約することにする。な



第３図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１全体図

お、文書表現を簡略するために整地層の第Ⅰ～Ⅳ層をＦ１～Ｆ４と表現する場合がある。さらに、グリットに対する区とした表現は、大型竪穴住居であるＢＨ１のグリット区分であり、正式には「例・ＢＨ１Ａグリット地区」となるが、ここではＡ区と表現している。

遺物の細分に関しては、土器・石器・礫器・炭化物が基本となるが、石器製作工房の特性から石器群については、石鏃・石匙等の完成石器とその製作過程での失敗品と判断される「所謂」分類可能な石器を「分類石器」、全体の長さが３㎝以上を越える剥片をフレーク、３㎝以内の細剥片をチップと便宜上表現した。

１）第Ⅰ層面の層序と遺物『第４図～第10図』

第Ⅰ層面の層序はＡ区が３㎝前後と薄いがグリットのＢ～Ｄ・Ｍ区は約５㎝前後を示している。遺物総数は、1,421,820点で、整地層の中では最も出土量が多く、フレーク・チップ等の剥片類を含めた石器群の1,418,393点を筆頭に土器類2,948点、、礫器が21点となっている。遺物の中心となる剥片は、Ｂ区が圧倒的に多く検出され、次にＤ区、Ｍ区の順となっている。この中で分類石器は、石鏃類の第Ⅰ群石器を中心に458点が含まれる。

以下、各区による遺物の細別数はつぎの通り。

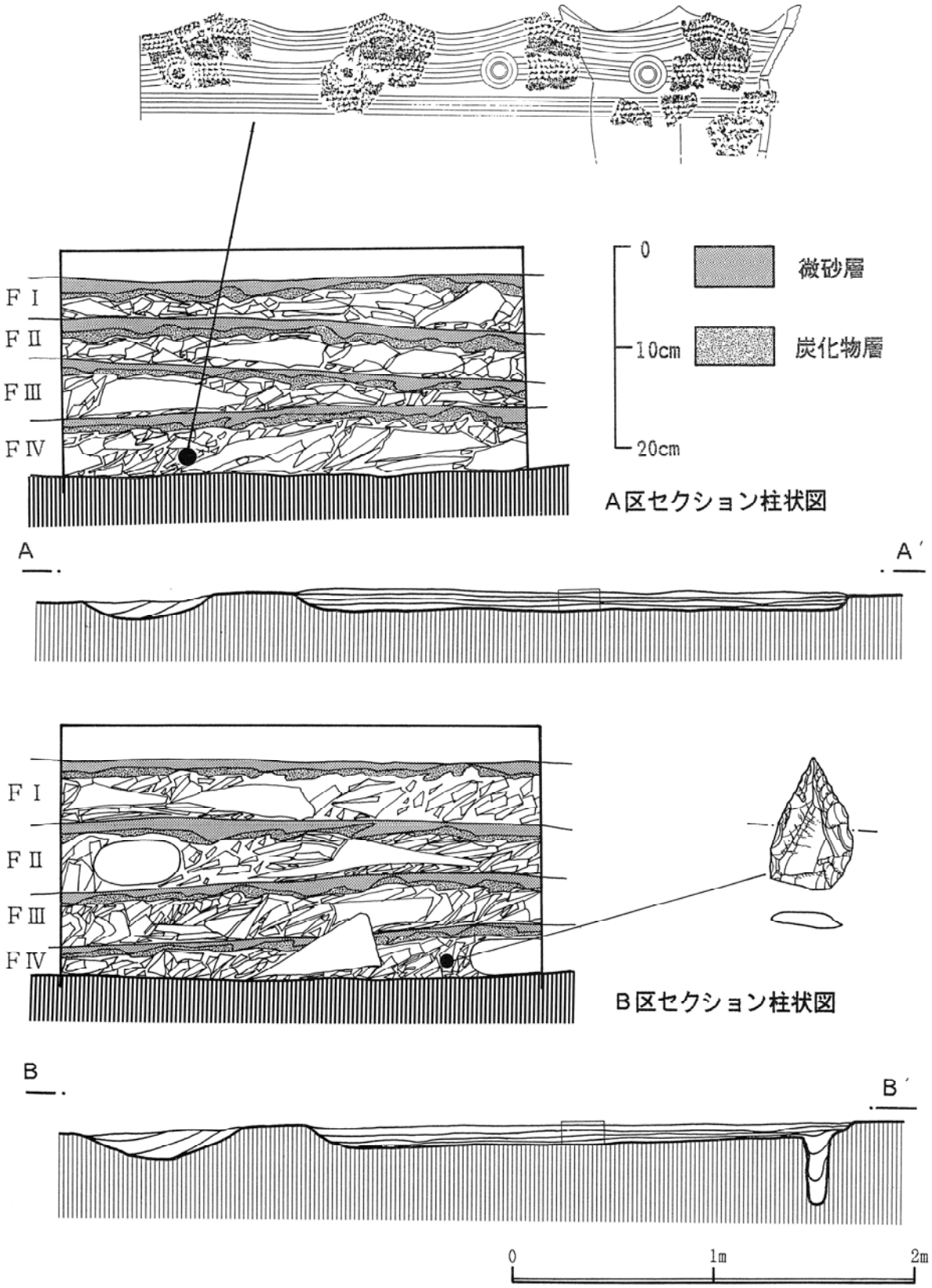
第１表　ＢＨ１第Ⅰ層（Ｆ１）出土遺物類計表

細別･出土地区	Ａ　区	Ｂ　区	Ｃ　区	Ｄ　区	Ｍ　区	計
土　器　片	476	583	997	551	341	2,948
分類石器	59	88	74	163	74	458
フレーク	537	716	657	929	770	3,609
チ　ッ　プ	53,072	986,282	76,351	168,152	130,927	1,414,784
礫　　器	4	3	2	2	10	21
合　　計	54,148	987,672	78,081	169,797	132,122	1,421,820
炭　化　物	920	380	810	690	560	3,360

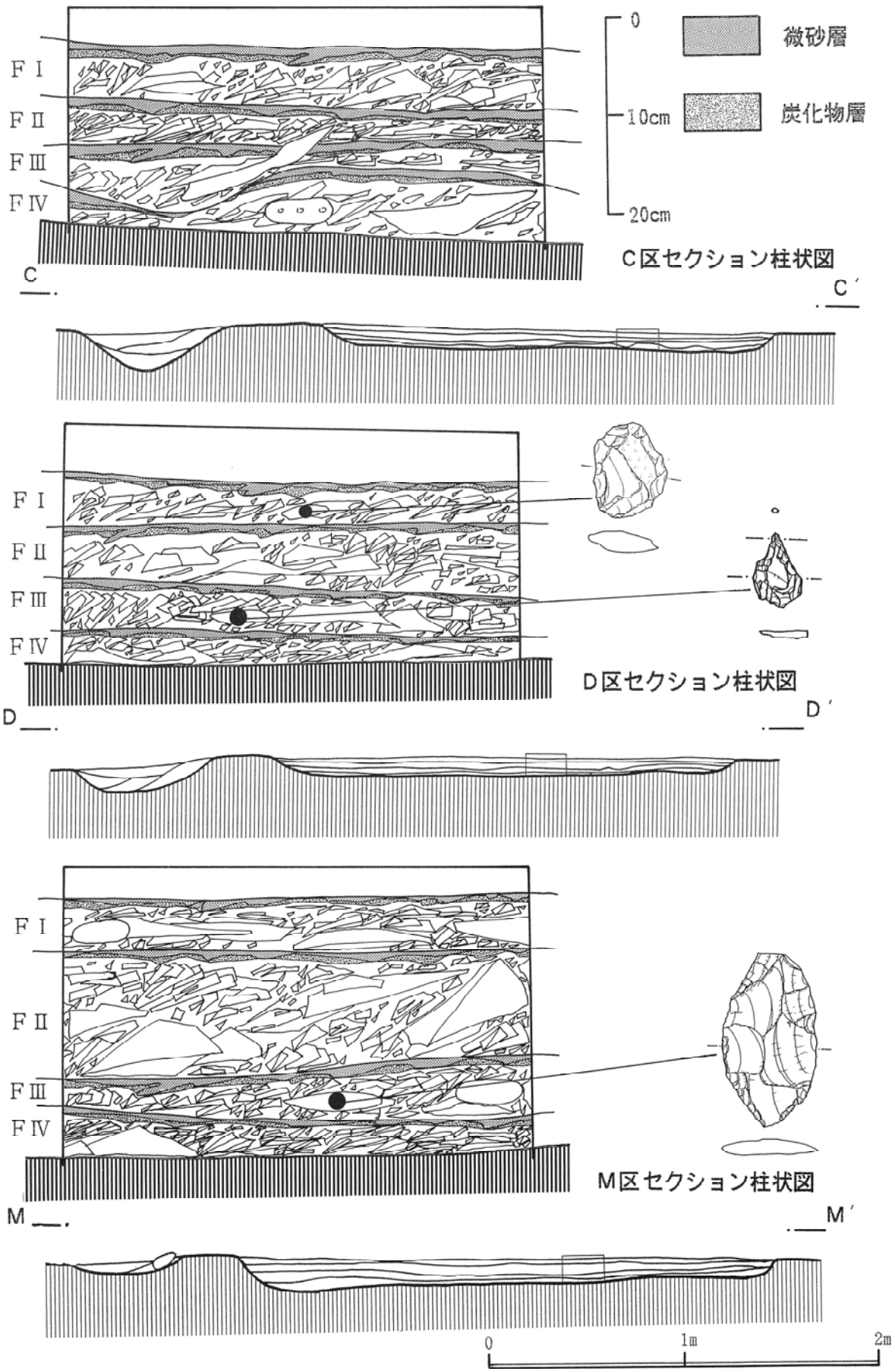
＊炭化物の単位はｇ

２）第Ⅱ層面の層序と遺物『第４図・第５図・第11図～第15図』

第Ⅱ層面の層序は、グリットＭ区が約10㎝前後と厚い整地層となっているが、他の区としては４㎝～６㎝前後を示す。遺物総数は、25,645点で、整地層の中では最も出土量が少ない。フレーク・チップ等の剥片類の24,828点を筆頭に、土器類が712点、、礫器が25点となっている。遺物の中心となる剥片は、Ｍ区が圧倒的に多く検出され、次にＢ区、Ｄ区の順となっている。この中での分類石器は、石鏃類の第Ⅰ群石器と石匙類の第Ⅱ群石器を中心として380点が含まれる。



第４図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１セクション柱状図（１）



第５図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１セクション柱状図（２）

以下、各区による遺物の細別数はつぎの通り。

第2表　ＢＨ１第Ⅱ層（ＦⅡ）出土遺物類計表

細別·出土地区	A　区	B　区	C　区	D　区	M　区	計
土　器　片	80	310	97	81	144	712
分類石器	60	63	40	68	149	380
フレーク	546	791	428	885	2,362	5,012
チ　ッ　プ	601	6,526	729	2,399	9,261	19,516
礫　　器	5	4	2	2	12	25
合　　計	1,292	7,694	1,296	3,435	11,928	25,645
炭　化　物	340	924	680	762	497	3,203

＊炭化物の単位はｇ

３）第Ⅲ層面の層序と遺物『第４図・第５図・第16図～第20図』

第Ⅲ層面の整地層は、２㎝～５㎝前後と平均的な堆積を示している。クルミによる炭化物は、A区～D区にかけて顕著にみられ、剥片の含む覆土内に焼土が多量にに混入するのを特徴としている。遺物の総数は289,414点で、整地層の中では後述する第Ⅳ層とほぼ等しい数量となっている。

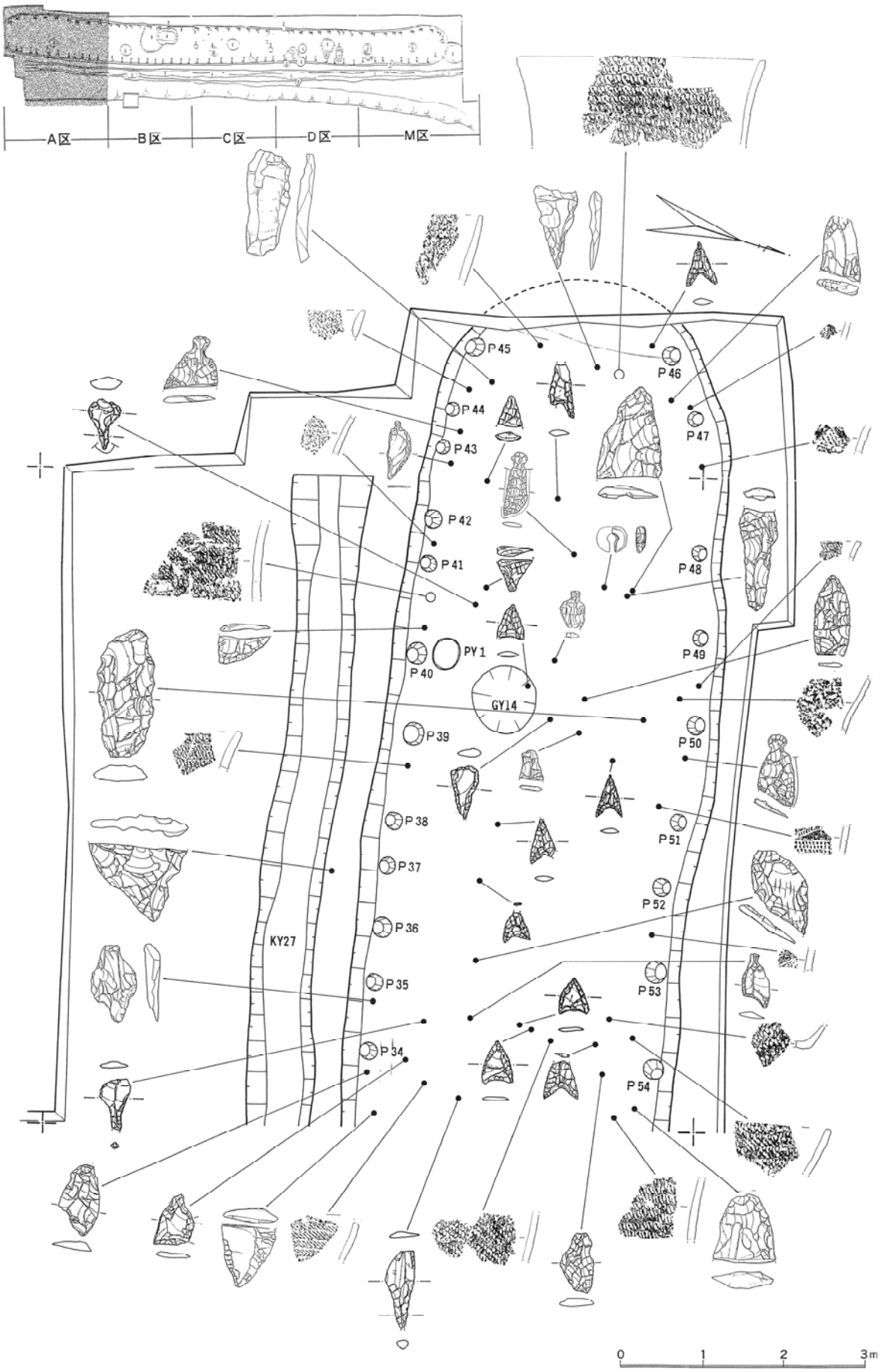
遺物の細別をみると、フレーク・チップ等の剥片石器類が286,949点、土器類が1,966点、、礫器が40点となっている。主体遺物となる剥片は、グリットM区が圧倒的に多く、次にA区、D区の順となっている。この中での分類石器は、B区・D区を主体に両尖七首類の第Ⅲ群石器と石鋸類の第Ⅳ群石器が比較的中心となり459点が検出されている。

以下、各区による遺物の細別数は次の通り。

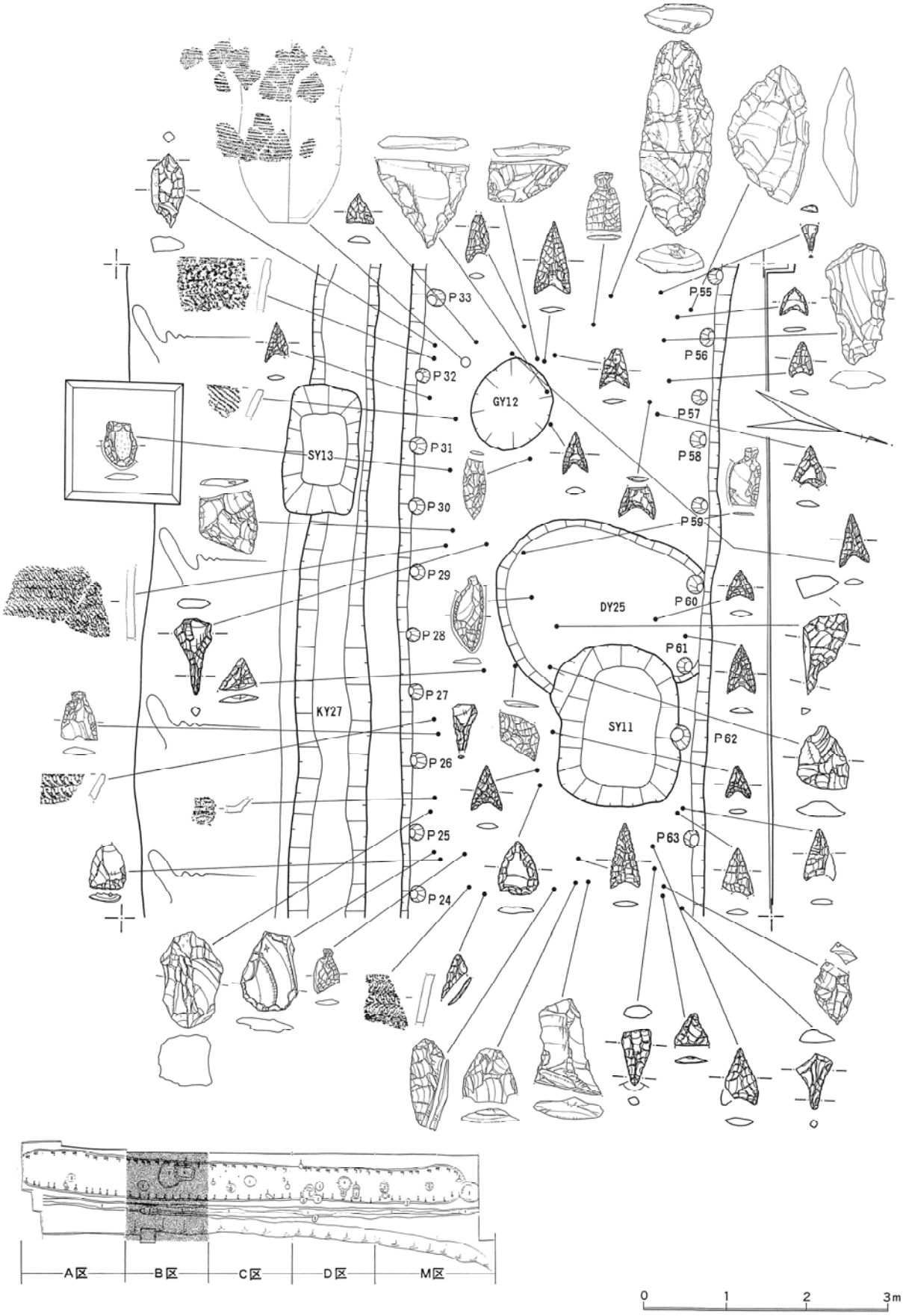
第3表　ＢＨ１第Ⅲ層（ＦⅢ）出土遺物類計表

細別·出土地区	A　区	B　区	C　区	D　区	M　区	計
土　器　片	548	392	430	368	228	1,966
分類石器	111	119	56	93	80	459
フレーク	1,142	986	625	745	686	4,184
チ　ッ　プ	86,344	9,531	4,059	54,836	127,995	282,765
礫　　器	9	7	3	4	17	40
合　　計	88,154	11,035	5,173	56,046	129,006	289,414
炭　化　物	2,070	520	589	350	435	3,964

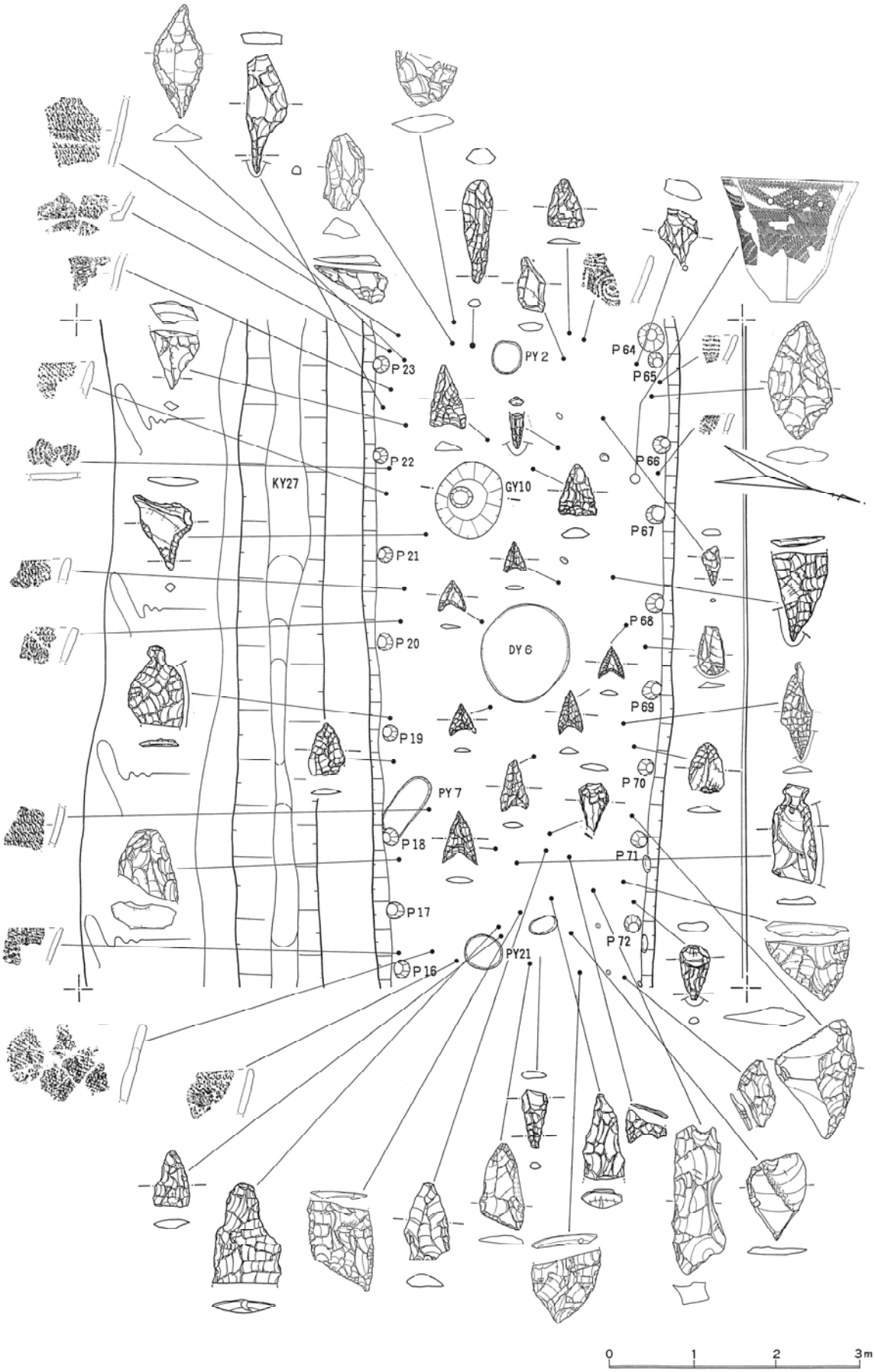
＊炭化物の単位はｇ



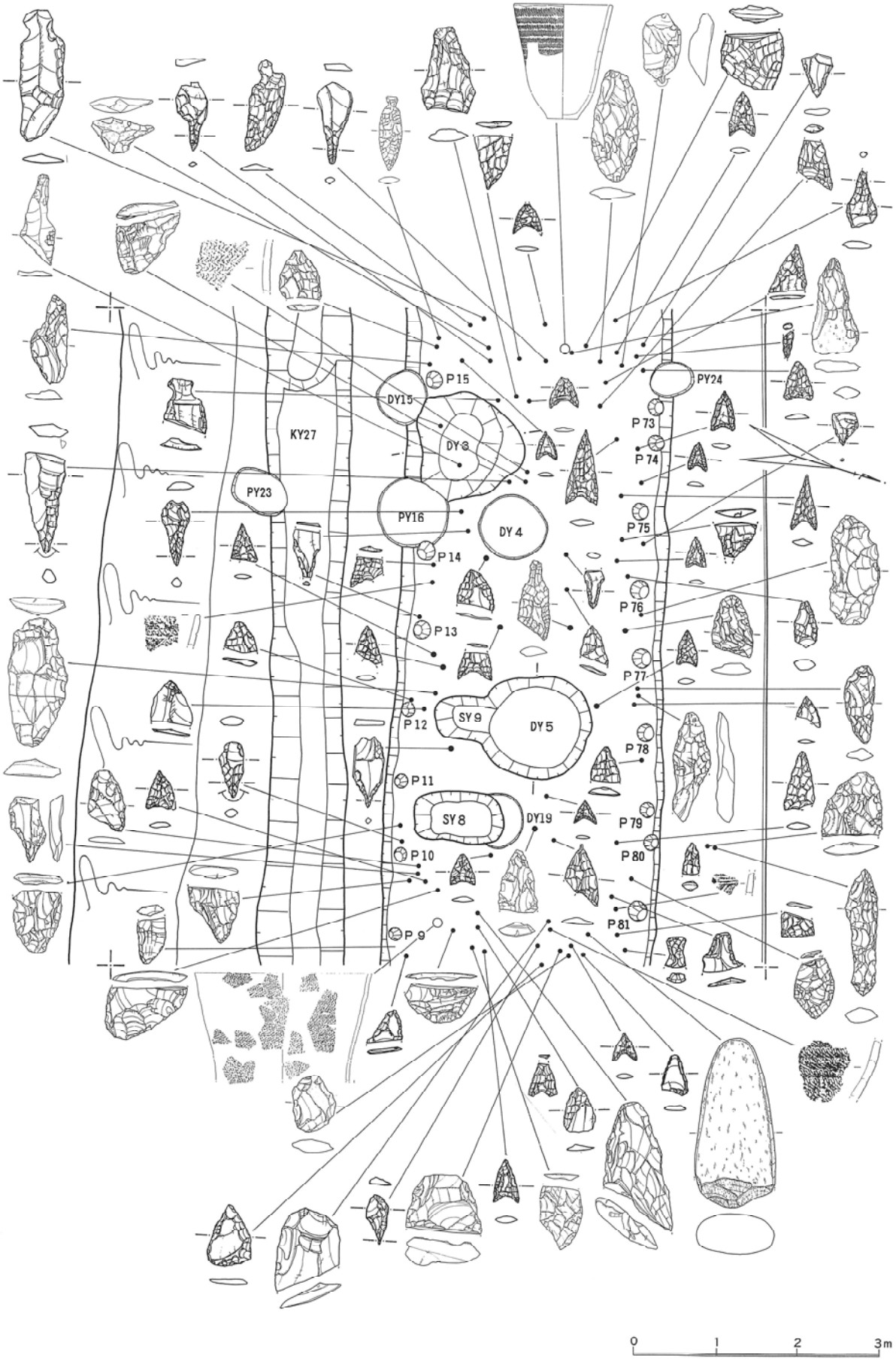
第６図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ａ区Ⅰ層遺物分布図



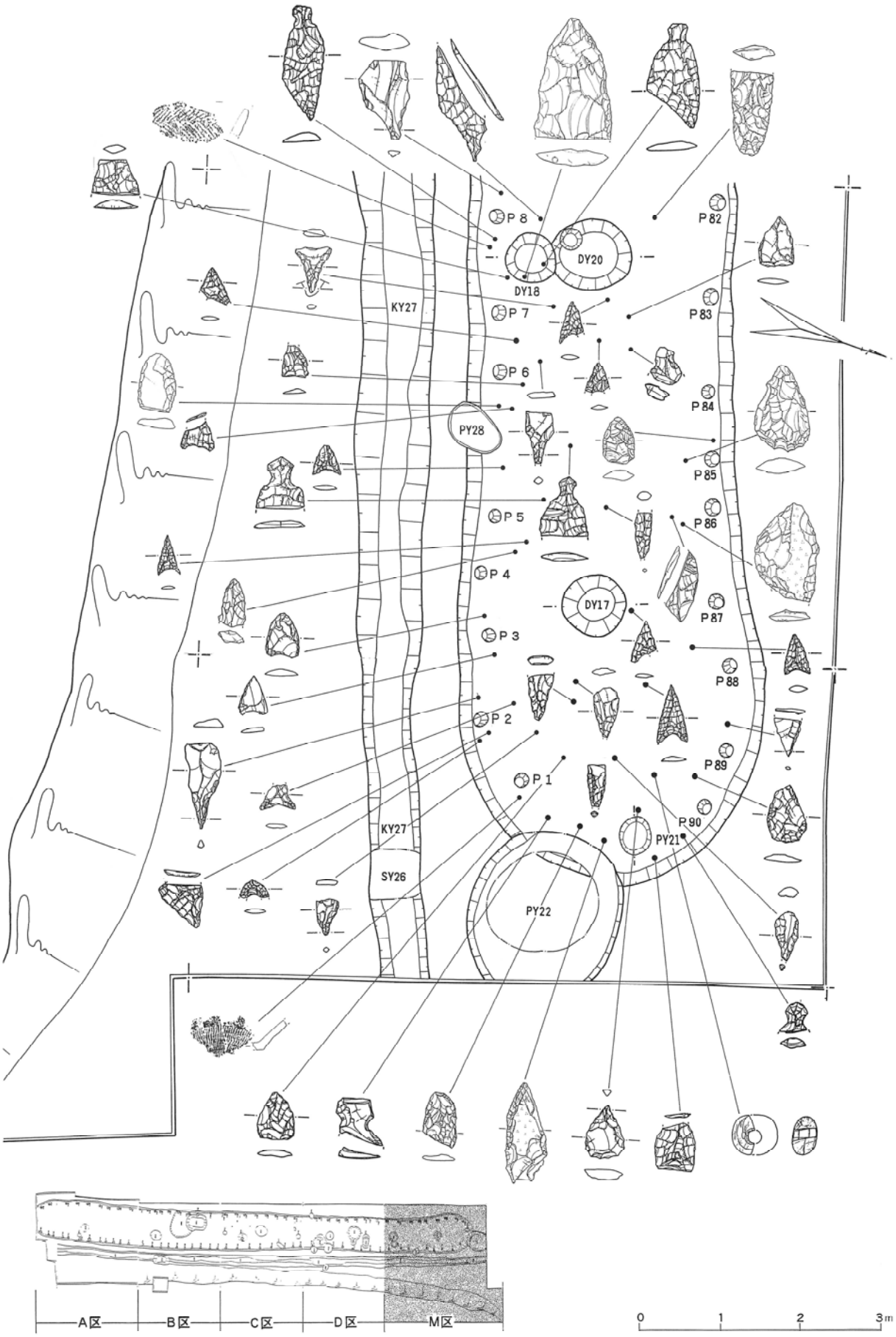
第７図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｂ区Ⅰ層遺物分布図



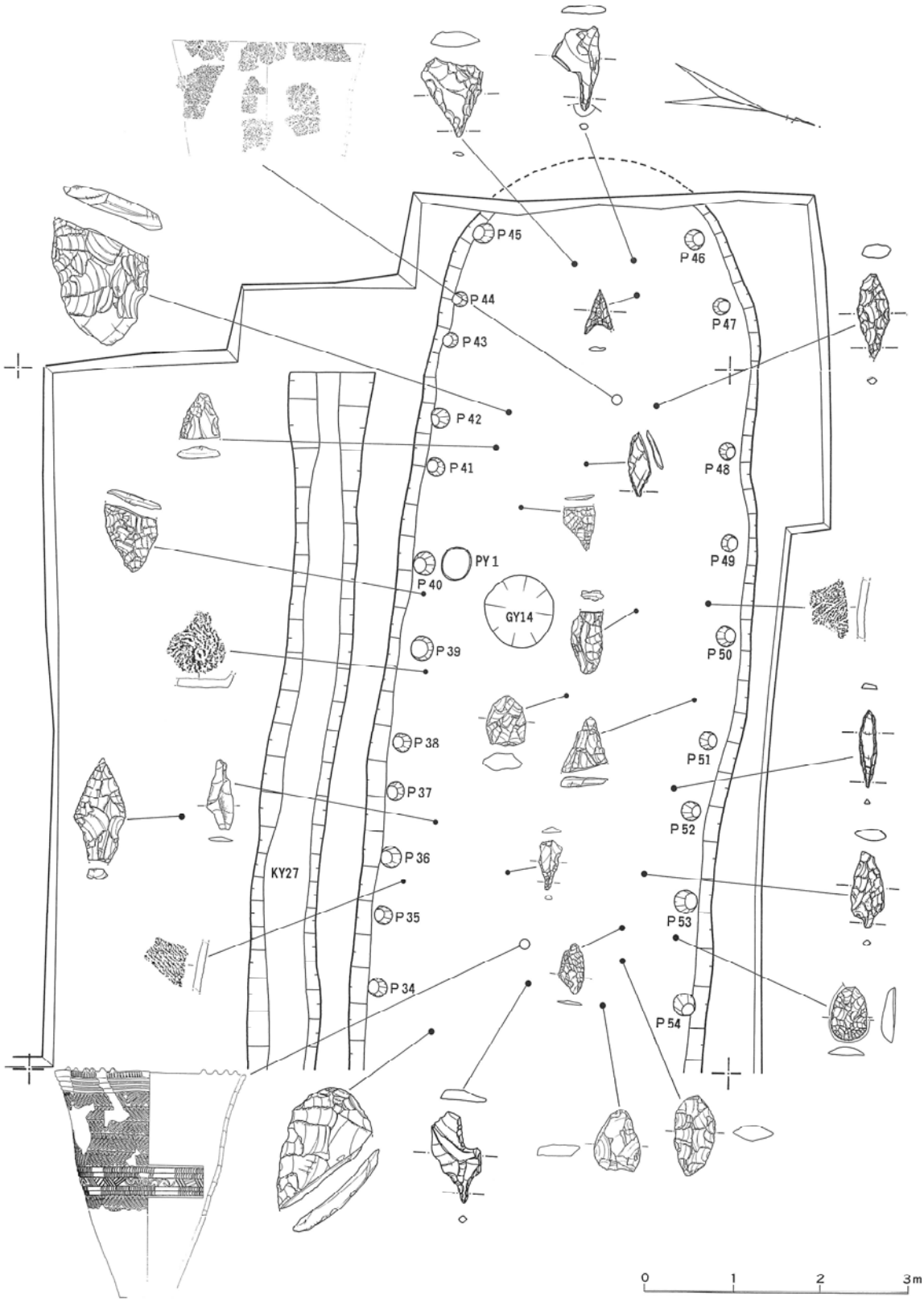
第８図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｃ区Ⅰ層遺物分布図



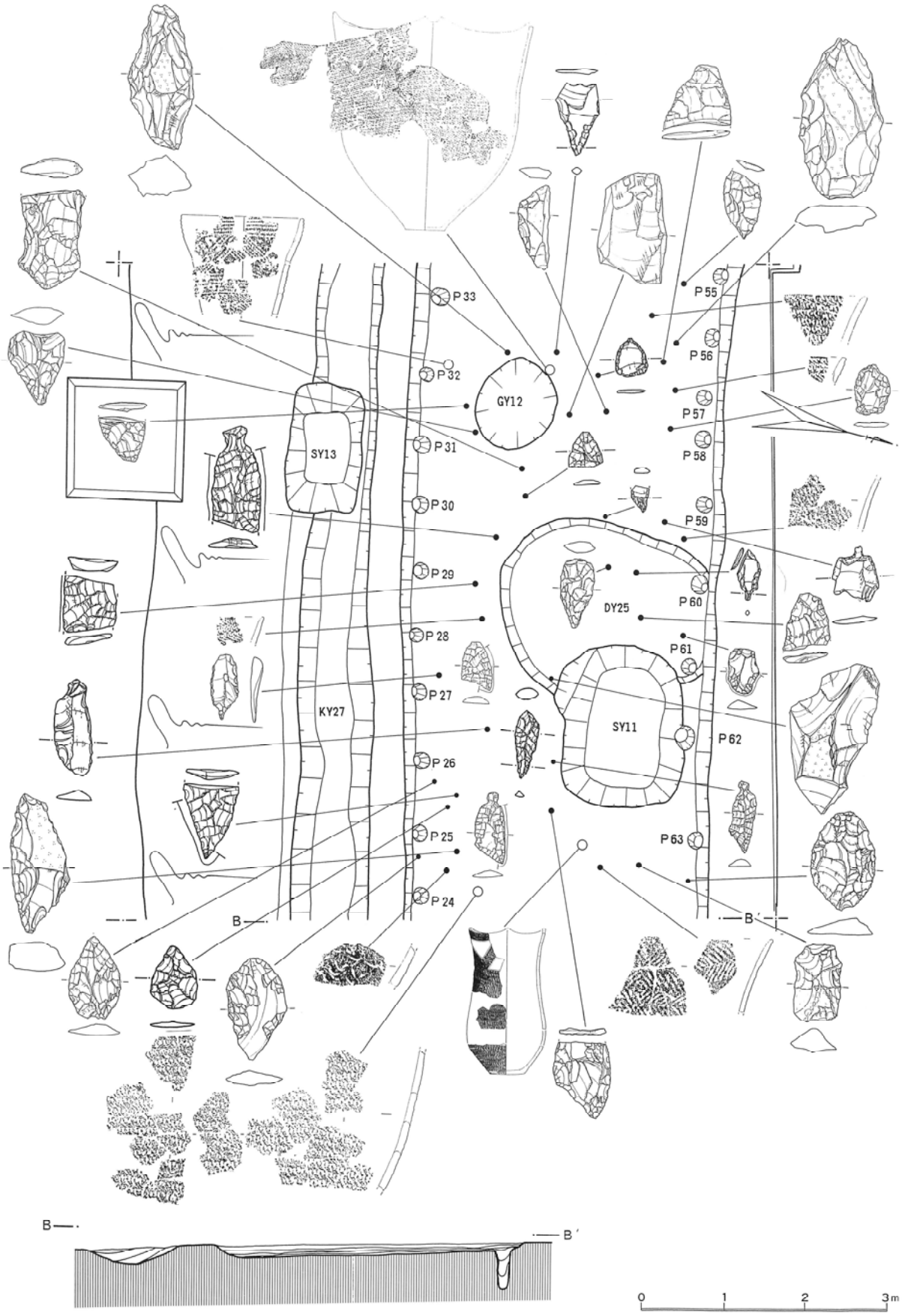
第９図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｄ区Ⅰ層遺物分布図



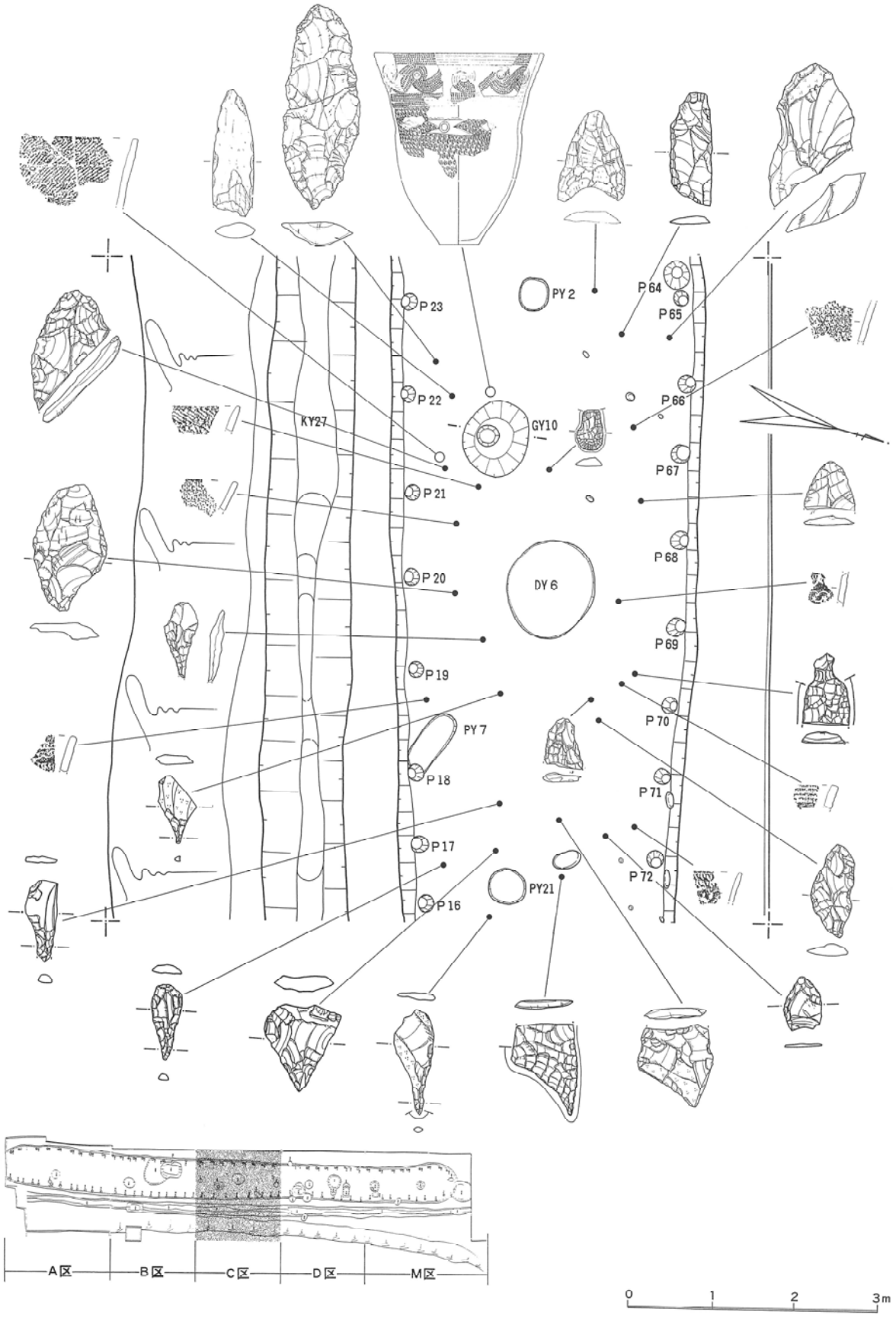
第10図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｍ区Ⅰ層遺物分布図



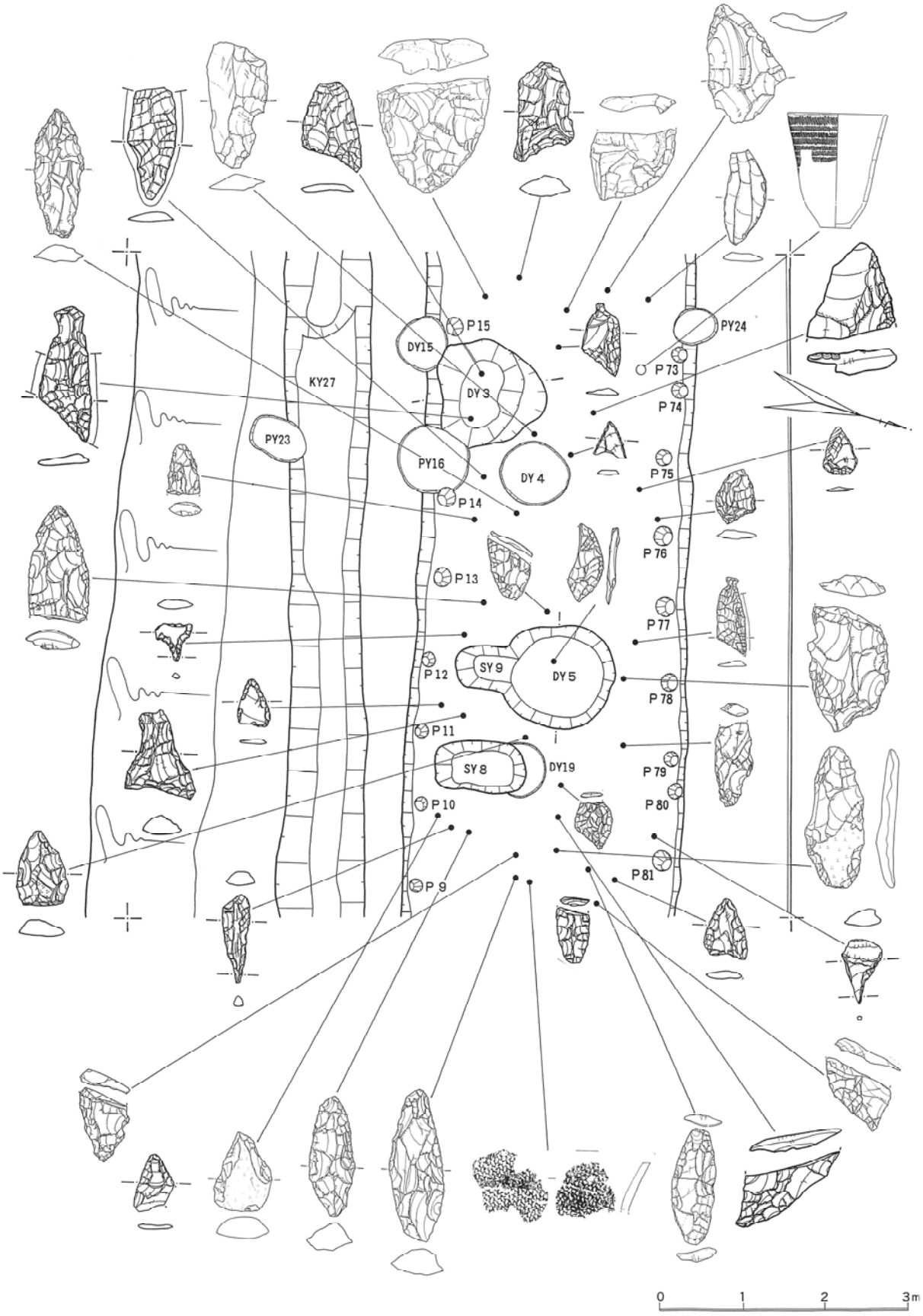
第11図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ａ区Ⅱ層遺物分布図



第12図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｂ区Ⅱ層遺物分布図

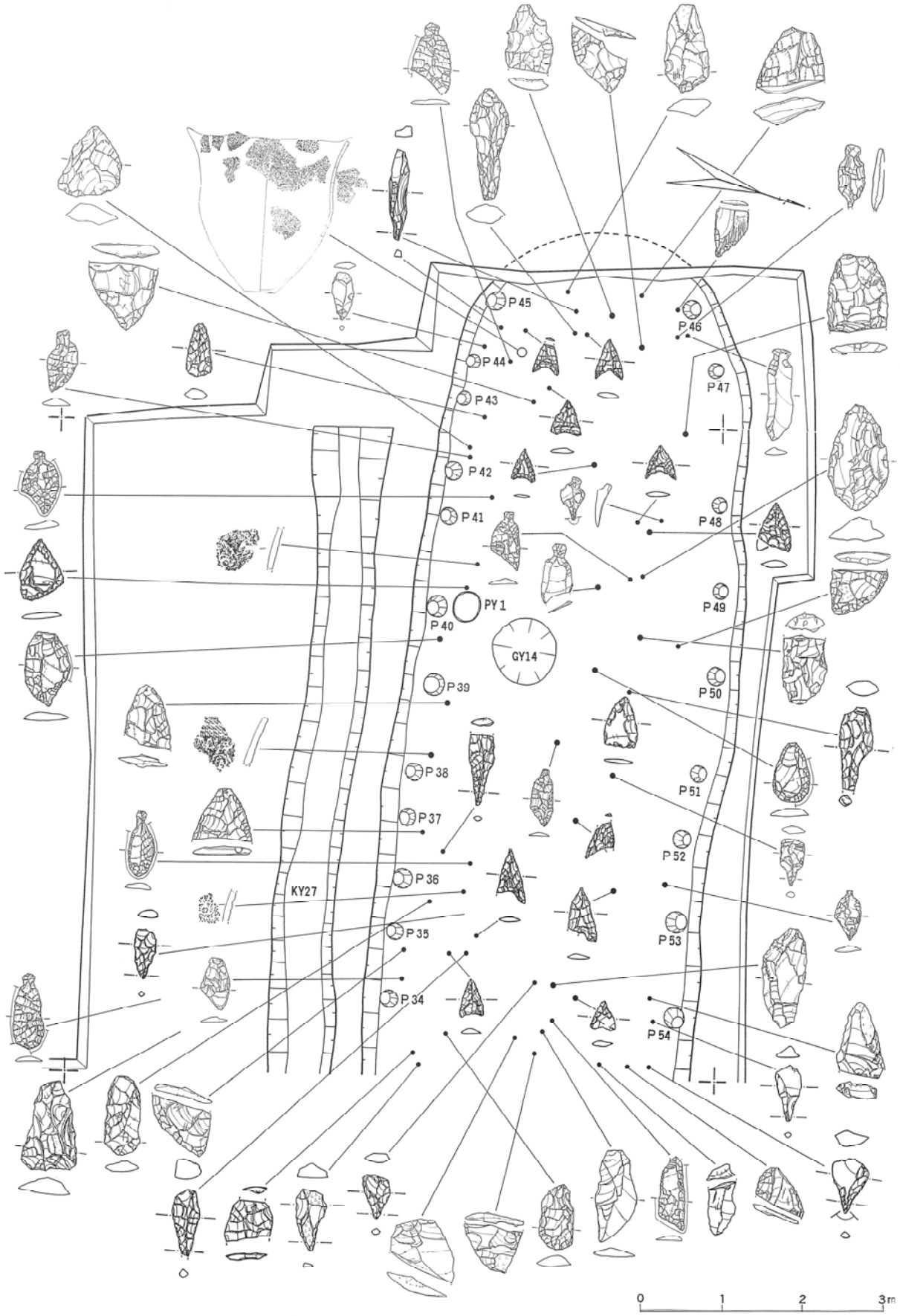


第13図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｃ区Ⅱ層遺物分布図



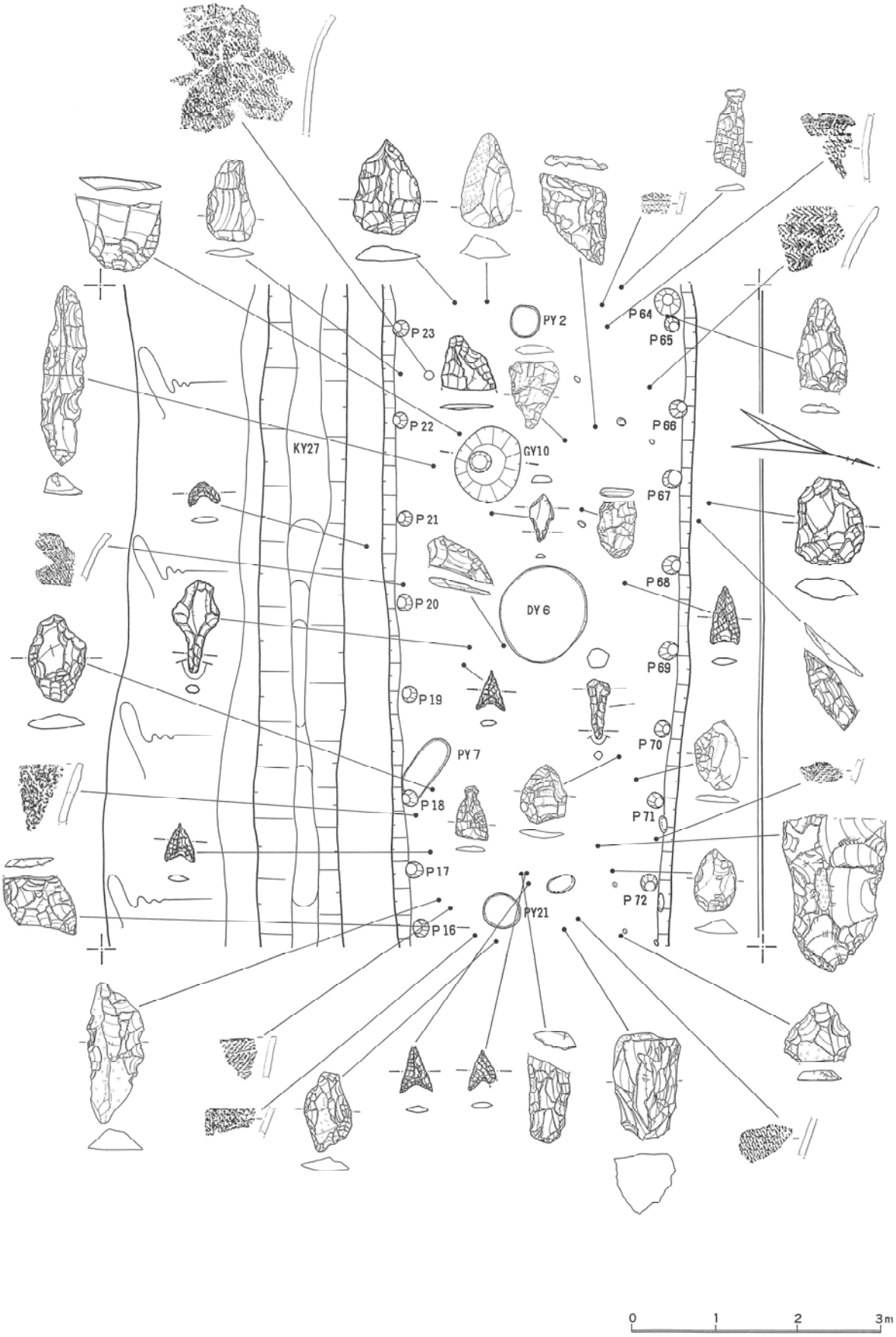
第14図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｄ区Ⅱ層遺物分布図

第15図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｍ区Ⅱ層遺物分布図

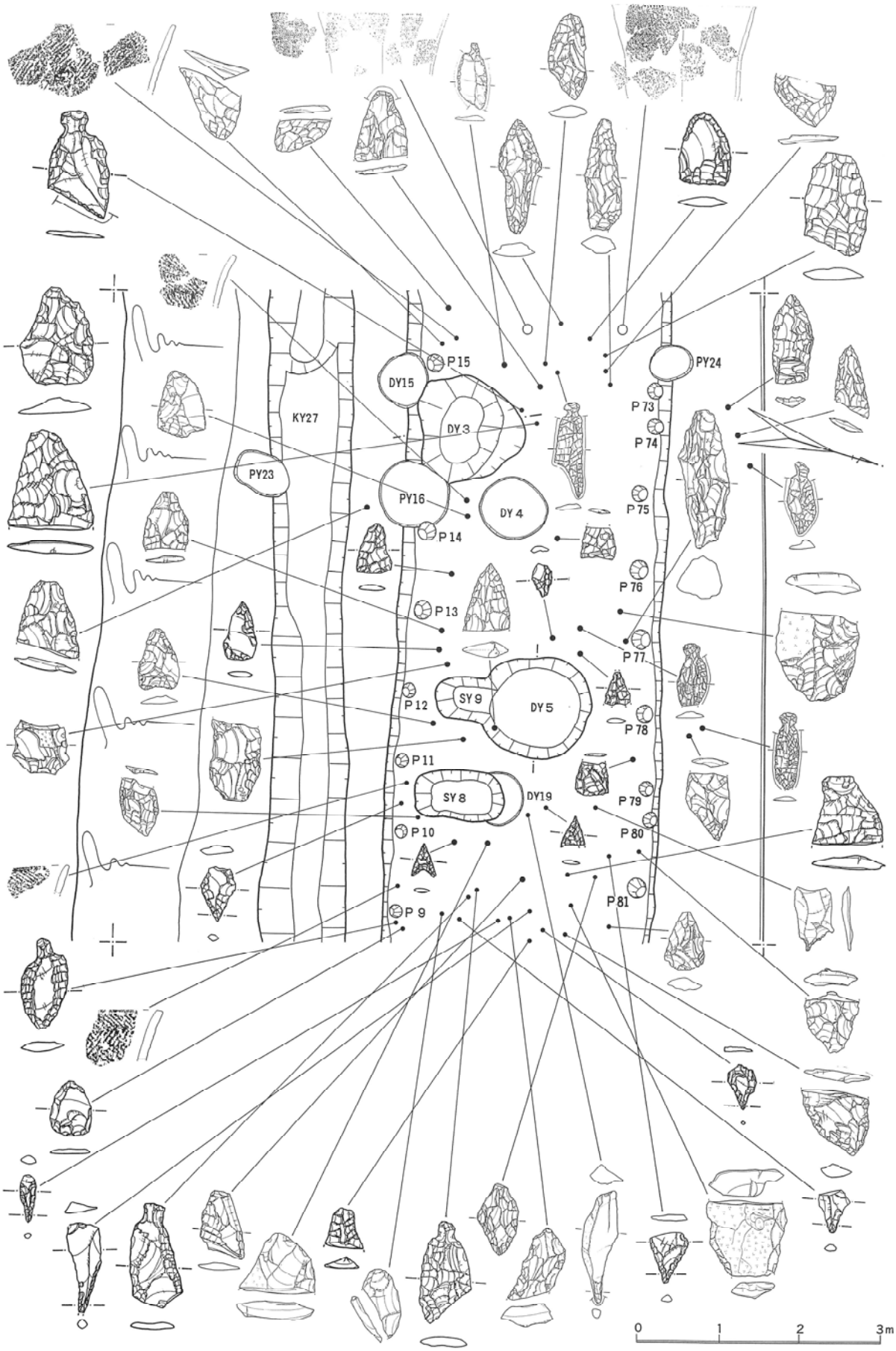


第16図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ａ区Ⅲ層遺物分布図

第17図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｂ区Ⅲ層遺物分布図

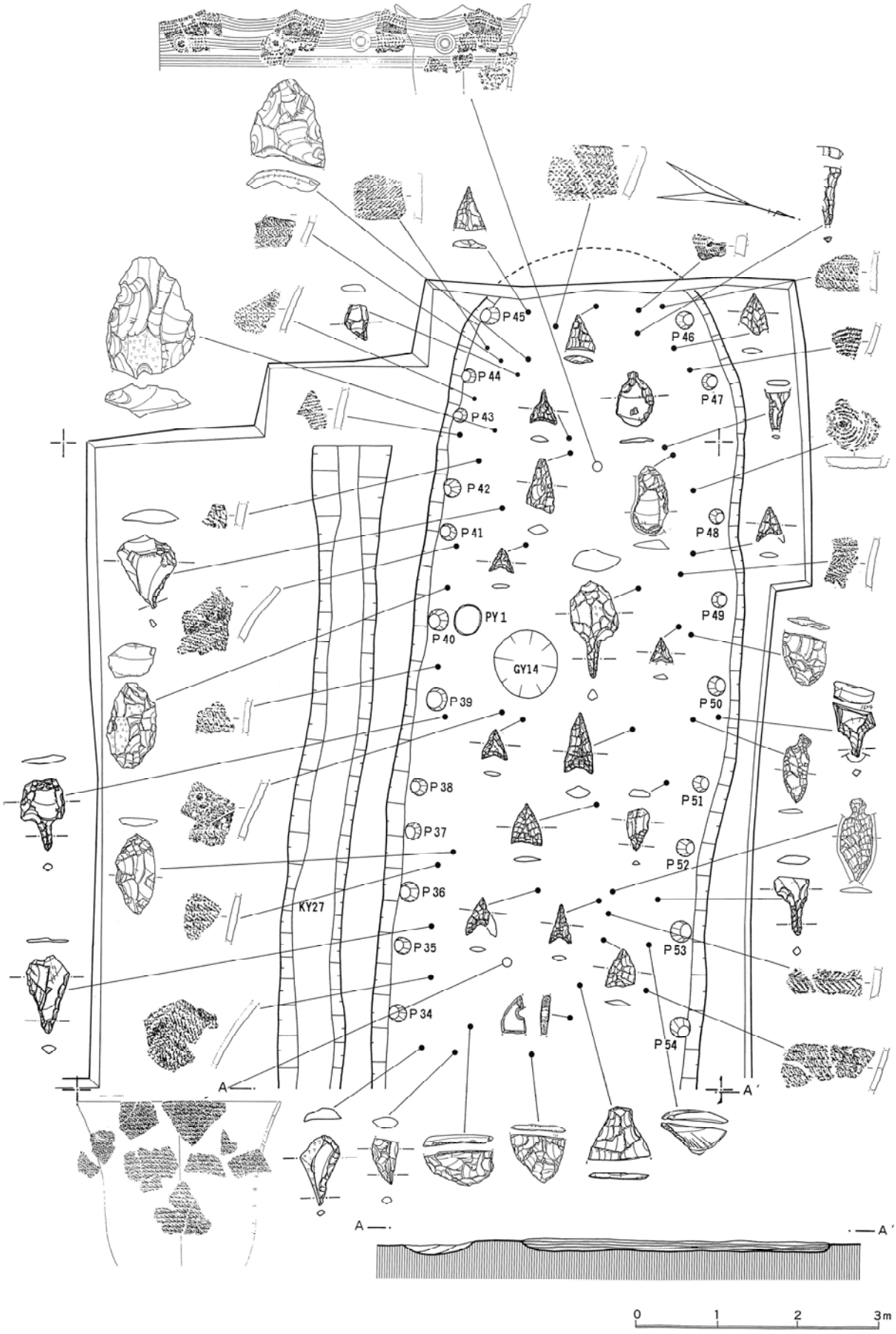


第18図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｃ区Ⅲ層遺物分布図

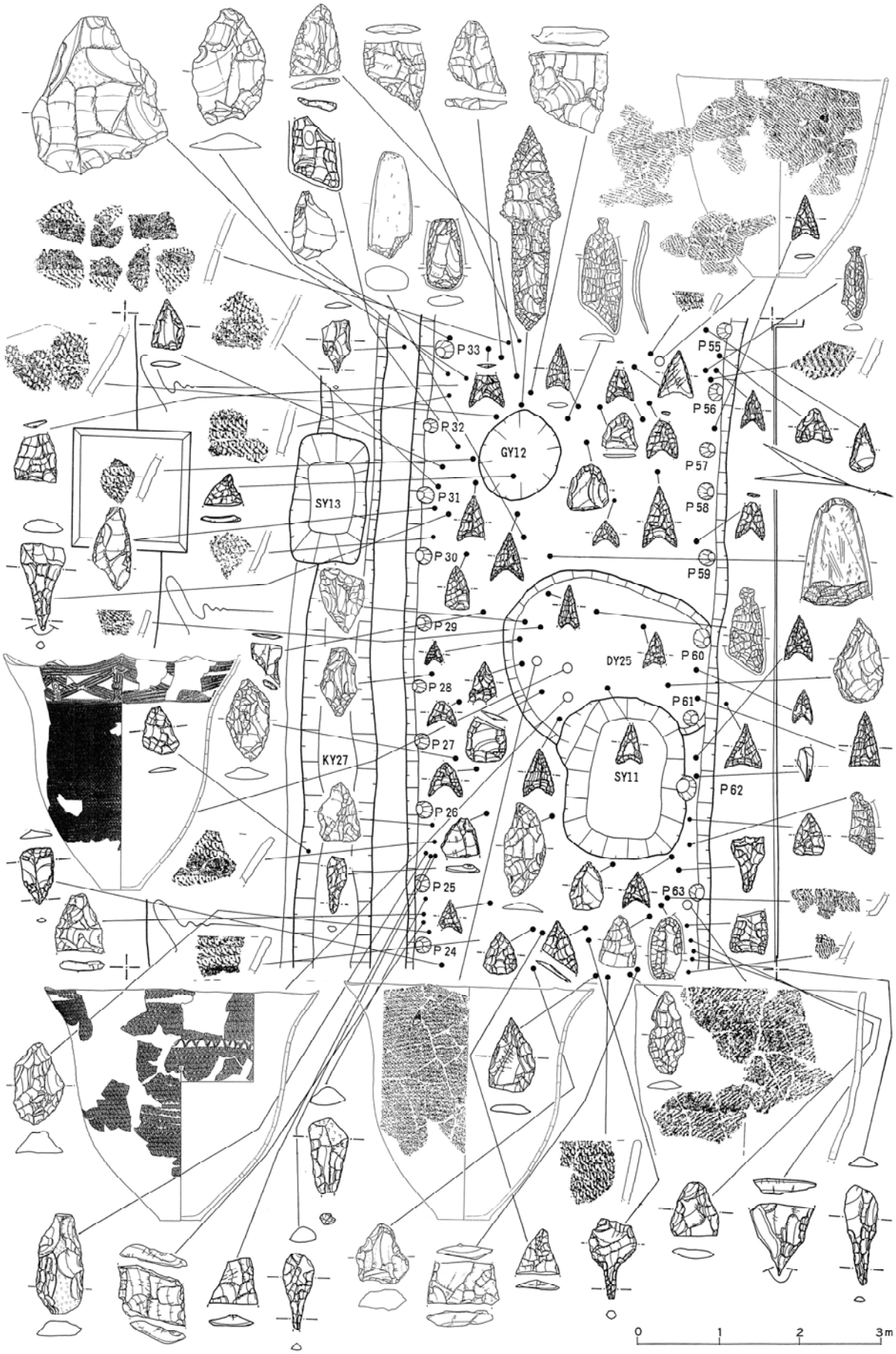


第19図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｄ区Ⅲ層遺物分布図

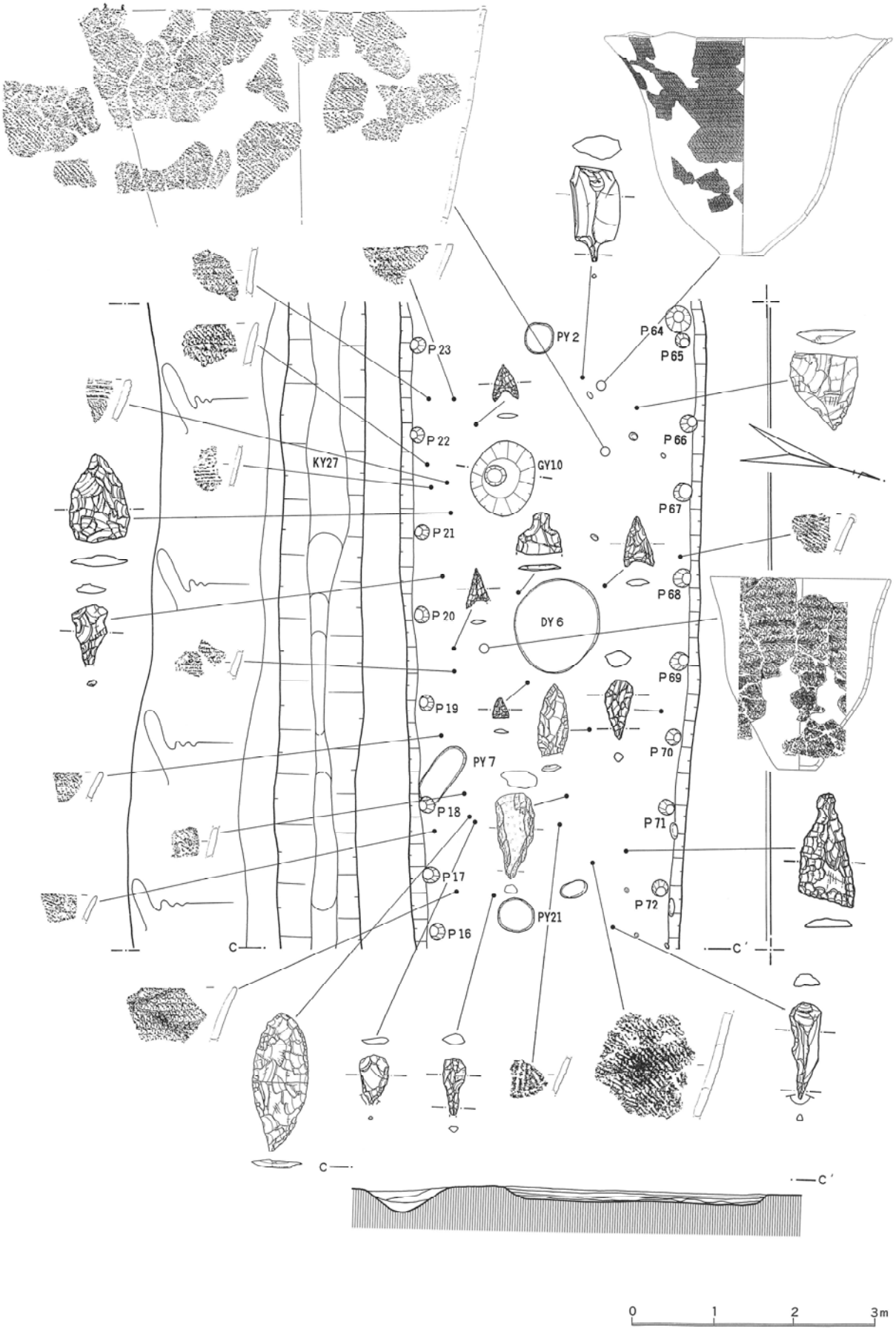
第20図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｍ区Ⅲ層遺物分布図



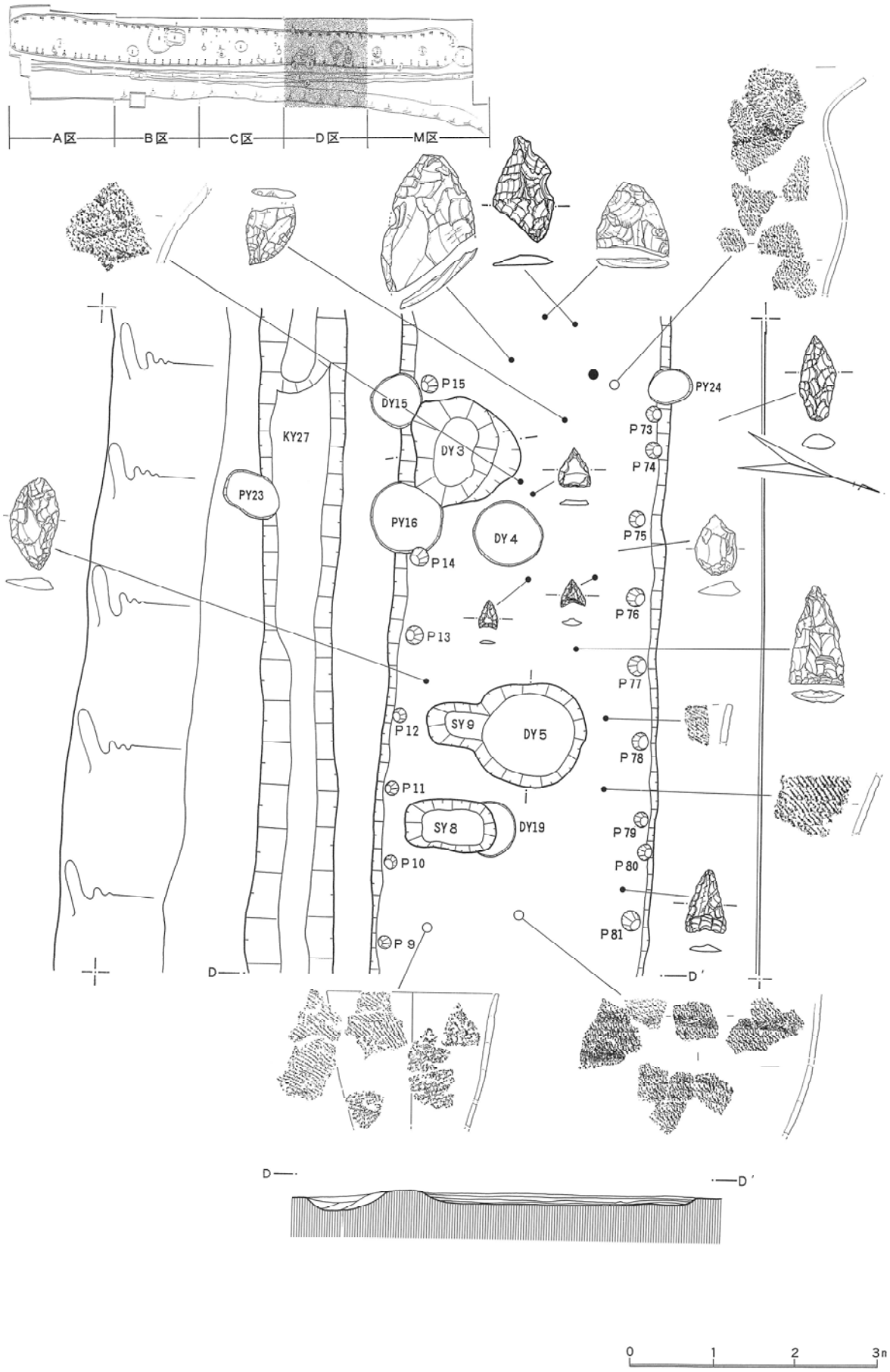
第21図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ａ区Ⅳ層遺物分布図



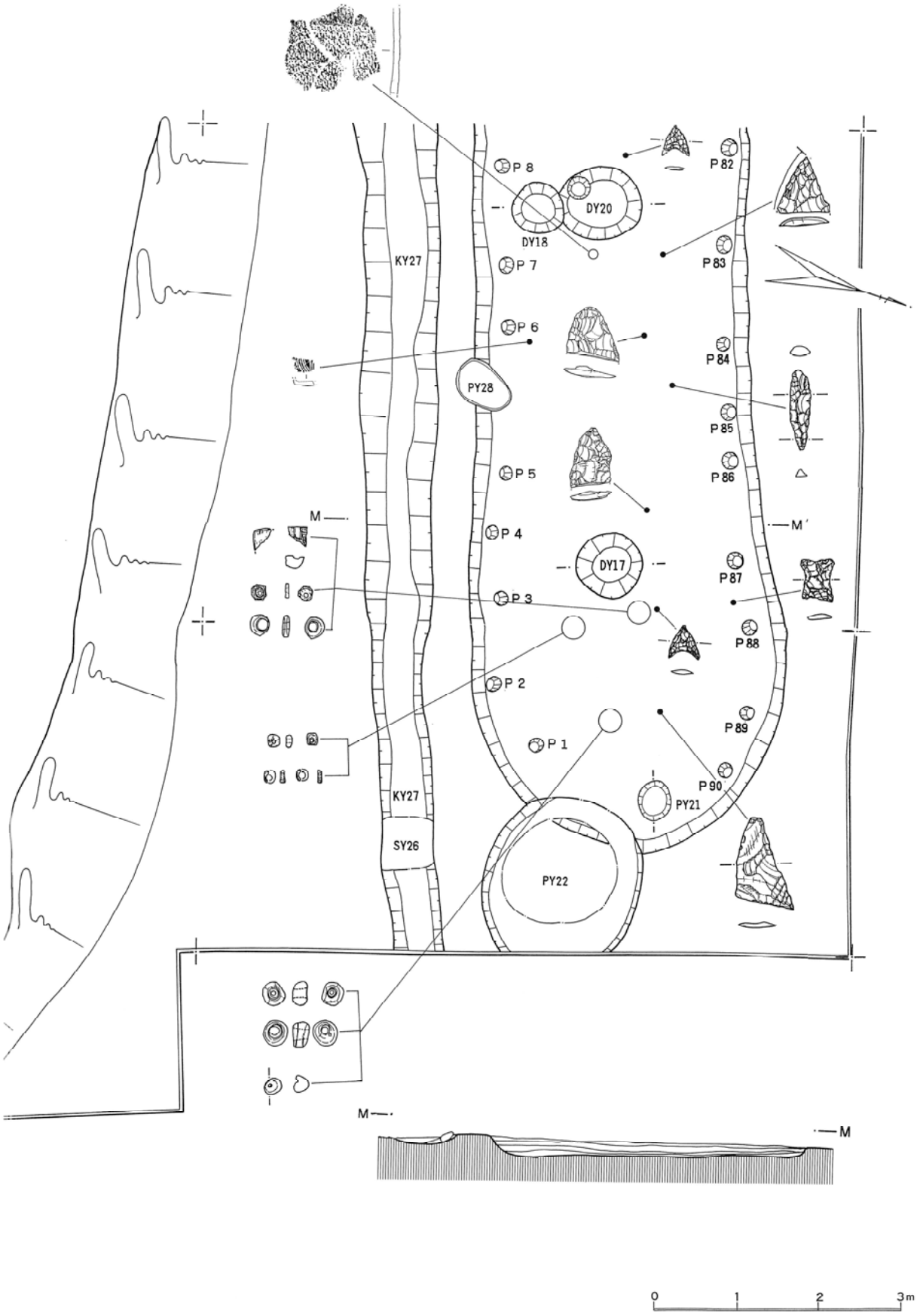
第22図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｂ区Ⅳ層遺物分布図



第23図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｃ区Ⅳ層遺物分布図



第24図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｄ区Ⅳ層遺物分布図



第25図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査ＨＢ１Ｍ区Ⅳ層遺物分布図

4）第Ⅳ層面の層序と遺物『第４図・第５図・第16図～第20図』

第Ⅳ層面として扱う層序は、Ⅳ層面の整地層と床面出土の遺物を加えたものである。層序は、３cm～６cm前後と平均的な堆積を示し、他の整地層と比較してやや炭化物の量が多いのが特徴である。遺物総数は、305,346点で、整地層の中では第Ⅲ層とほぼ等しい。フレーク・チップ等の剥片石器299,528点を筆頭に土器類が5,503点、、礫器が73点となっている。遺物の中心となる剥片は、グリットＢ区が圧倒的に多く、次にＡ区、Ｃ区の順となっている。この中での分類石器は、Ｂ区を主体に石鏃の第Ⅰ群石器、両尖七首類の第Ⅲ群石器と石匙類の第Ⅱ群石器、石錐の第Ⅴ群石器等が多く242点が含まれる。また、床面から土壙にかけて完形土器を含め、土器群が圧倒的に多いのも特徴であり、大型の深鉢形の大半も第Ⅳ層面からの検出である。

以下、各区による遺物の細別数はつぎの通り。

第４表　ＢＨ１第Ⅳ層（ＦⅣ）出土遺物類計表

細別･出土地区	Ａ　区	Ｂ　区	Ｃ　区	Ｄ　区	Ｍ　区	計
土　器　片	1,425	2,683	594	341	460	5,503
分類石器	51	135	28	13	15	242
フレーク	551	1,030	330	111	110	2,132
チ　ッ　プ	69,500	129,496	51,443	26,514	20,443	297,396
礫　　器	12	11	9	8	33	73
合　　計	71,539	133,355	52,404	26,987	21,061	305,346
炭　化　物	2,130	260	320	489	291	3,490

＊炭化物の単位はｇ

ＢＨ１内からの各区による遺物総数は次の通り。

第５表　ＢＨ１出土遺物総計表

細別･出土地区	Ａ　区	Ｂ　区	Ｃ　区	Ｄ　区	Ｍ　区	計
土　器　片	2,529	3,968	2,118	1,341	1,173	11,129
分類石器	281	405	198	337	318	1,539
フレーク	2,776	3,703	2,040	2,670	3,928	15,117
チ　ッ　プ	209,517	1,131,835	132,582	251,901	288,626	2,014,461
礫　　器	30	25	16	16	72	159
合　　計	215,133	1,139,936	136,954	256,265	294,117	2,042,405
炭　化　物	5,460	2,084	2,399	2,291	1,783	140,017

＊炭化物の単位はｇ

Ⅲ　ＢＨ１内の遺構

ＢＨ１内部とその周辺から検出されている遺構は28基で、この中でＢＨ１の竪穴住居跡に伴うと想定される施設としては、ＤＹ４・ＧＹ10等の地床炉やＤＹ３・ＤＹ25の土壙を含め14基が存在する。

ここでは、住居跡に伴う遺構を主体に説明を加える。

１）地床炉『第３図，第26図，第27図』

住居跡床面の中央南寄りに、Ａ区にＧＹ14・Ｂ区にＧＹ12・Ｃ区にＧＹ10・Ｄ区にＤＹ４・Ｍ区にＤＹ20とＤＹ17の２基の６基が存在する。前者のＡ区～Ｃ区の炉跡に関しては約６ｍ前後の間隔で配置されているが、Ｄ区とＭ区の３基の炉跡は４ｍ～６ｍと間隔が狭くなっている。形状は円形プランを有し、長径が45㎝～60㎝、床面からの深さが９～20㎝を測る。

これらの炉跡は、各整地層の全てに伴うものではなく、既に前述しているように、住居跡の構築された初期（床面）からＦⅣの整地段階までは、６基の炉跡が存在していたが、ＦⅢの整地の段階ではＤＹ20が整地とともに埋められＤＹ４・ＧＹ10・ＧＹ12・ＧＹ14・ＤＹ17の５基が機能している。

さらに、ＦⅡの整地の段階に入るとＤＹ17が埋められ、ＤＹ４・ＧＹ10・ＧＹ12・ＧＹ17の４基が機能しているとみられる。

ＦⅠの整地の段階に入ると、ＧＹ14はＦⅡの整地によって埋められ、ＤＹ４・ＧＹ10・ＧＹ12の３基が炉跡として機能するもので当初の半分となる。

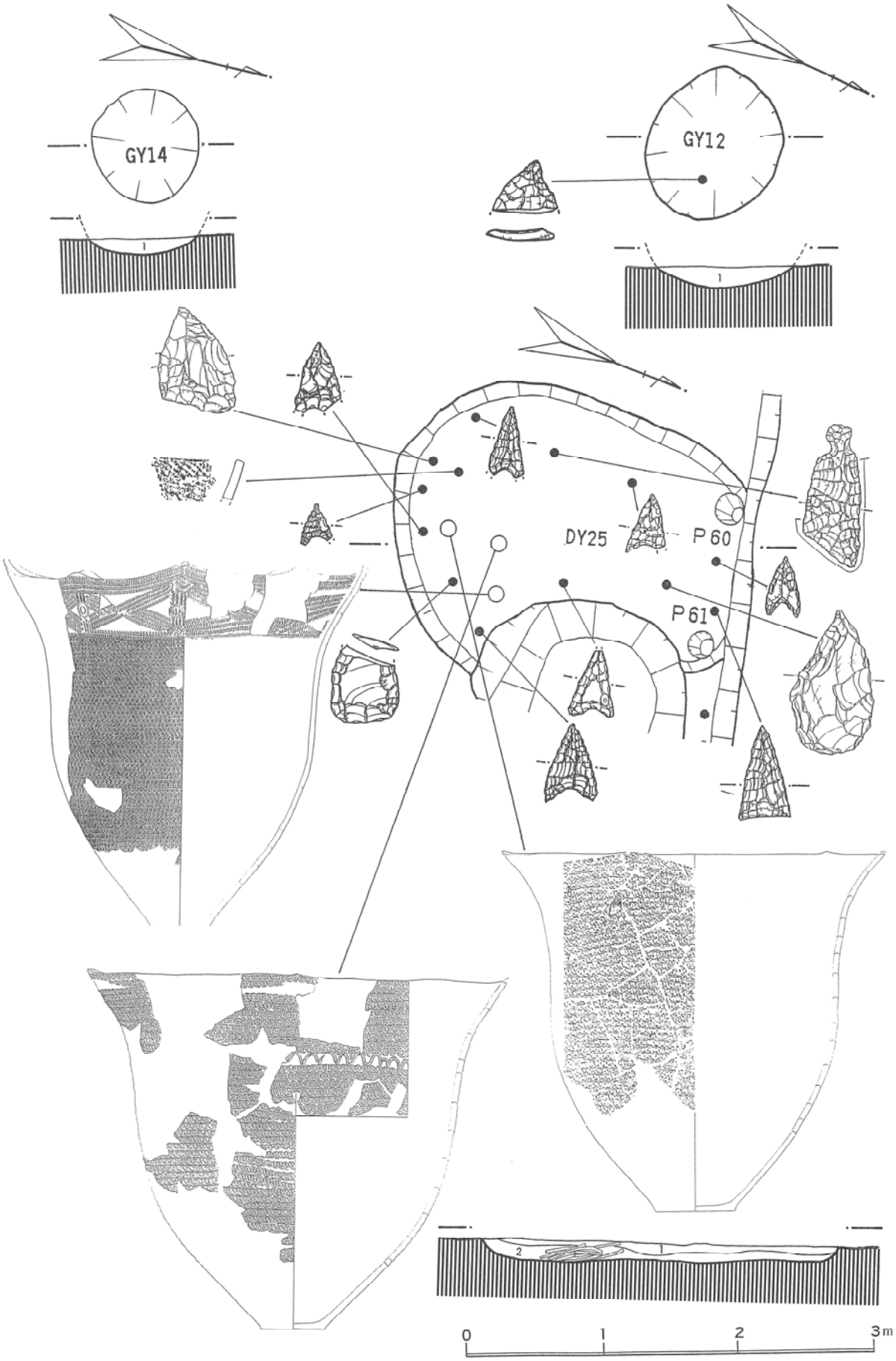
このように整地を繰返ごとに炉跡が減少する背景には、大型住居跡の空間における機能としての役割の移動とも捉えることも可能であり、前述したＢＨ１の各整地層におけるグリット内の極端な出土遺物の相違に表れているものと考えけれる。

炉跡内からの遺物としては、フレク・チップを中心にＧＹ12の3,977点を最高にＧＹ10の1,073点と続き、炉跡全体の総数は6,107点が出土している。

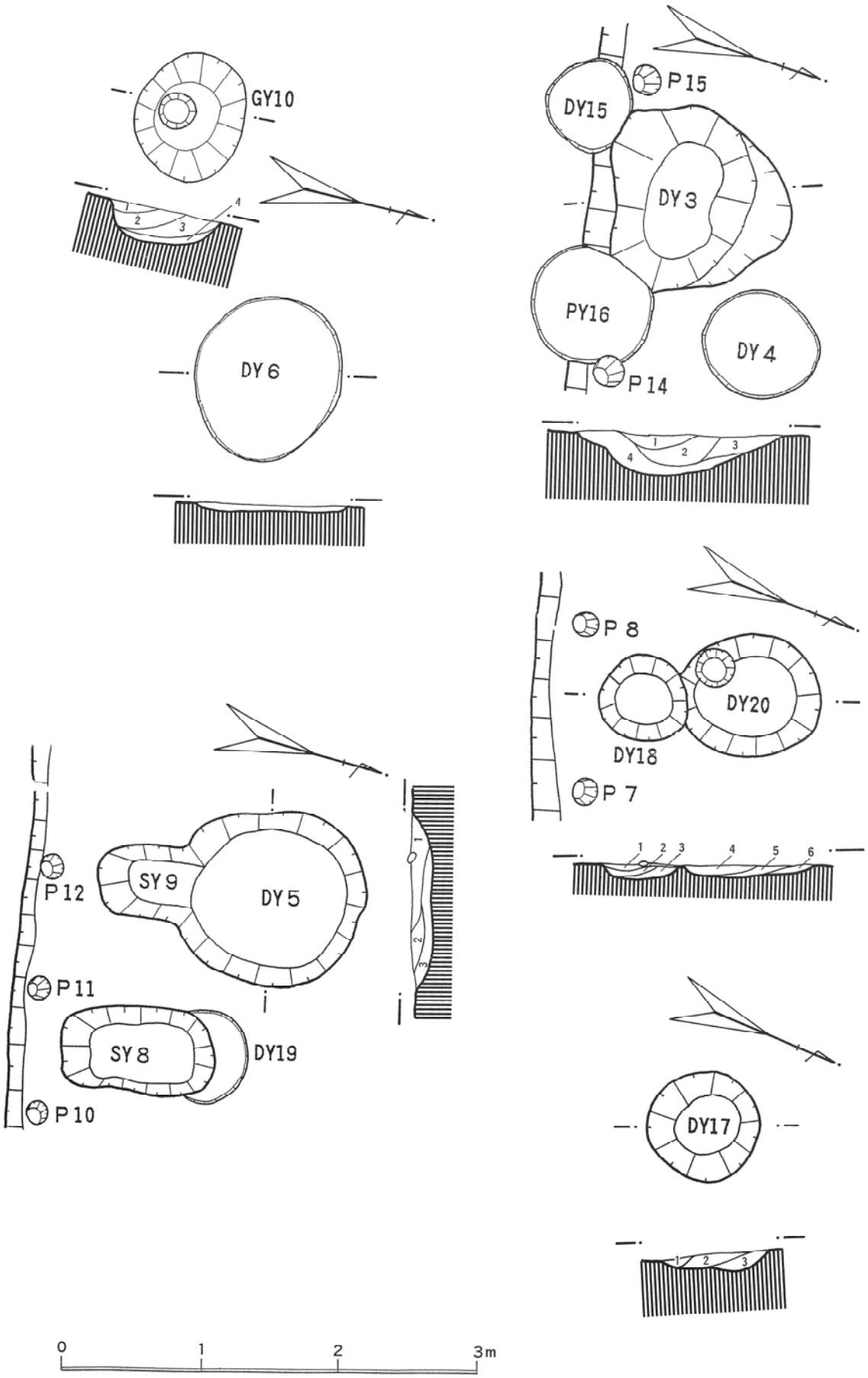
２）土　壙『第３図，第26図，第27図』

住居跡のＤ区・Ｍ区を中心に７基が確認された。この中で住居跡に伴うものは、ＦⅡからの遺構としてＤＹ18・ＤＹ19の２基、ＦⅢからの遺構がＤＹ６の１基、床面及びＦ４の遺構がＤＹ３・ＤＹ５・ＤＹ25の３基の計６基であり、ＤＹ15に関しては後世の遺構とみられる。形状は、円形及び楕円形をなす。

この中で注目されるのがＤＹ25である。Ｂ区の北側壁に沿って存在するもので、長径が2.7ｍ、短径2.23ｍ、床面からの深さが11㎝を測る。内部にはＦ３つまり、整地第Ⅲ層の段階で埋



第26図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査遺構平面図（1）



第27図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査遺構平面図（2）

められた整地層が堆積しており、第29図－１，第30図－１，第44図－１の大型深鉢形土器３点を含む土器片52点、フレーク・チップ等の剥片が8,488点と石鏃５点を含む分類石器が８点、それに炭化クルミが651ｇ出土している。

ＤＹ25の覆土は２枚に分けられ、多量の焼土や炭化物が混入し、大型深鉢形土器は底面につぶれた状況で検出されている。このことから、遺構の時期としてはＦⅣの整地された時期からＦ３の整地の行われる直前の間に機能していたと推測され、覆土の様子や大型の深鉢形土器の存在を考慮すれば、住居内部の調理等に係る施設の可能性が指摘される。

土壙内出土の遺物としては、剥片石器を中心にＤＹ３の13,812点を筆頭にＤＹ25の8,548点、ＤＹ５の5,606点と続き、総数で31,835を数える。

３）溝状遺構（ＫＹ27）『第３図，第４図～第25図』

ＢＨ１の大型住居跡の北側に隣接して確認されたもので、幅が68cm～105cm、確認面からの深さが25cm～46cmを測る。覆土は２～４枚で、南側の斜面からの自然堆積状況を示していた。

遺物は少なく、土器片10点と剥片365の計357点であった。遺構の確認面が大型竪穴住居跡と同じ３層上面であることや覆土の状況から住居跡と同時期に機能した、つまり、共存していた可能性が強く、段丘直下という特異な立地などを想定すれば、住居跡に伴う排水溝と推測するのが妥当といえる。

４）その他の遺構『第３図，第４図～第27図』

ＰＹとＳＹ記号を有する遺構を一括する。ＳＹ記号の遺構は、現代の耕作によって露出した河原石を処理するために掘られたもので、ＰＹ記号の遺構は、立木等の移植痕および中・近世頃の不明遺構とみられる。ただし、ＰＹ２はＦⅡ面の遺構。ＰＹ21に関しては、竪穴住居跡に伴う柱穴の一部であることが判明している。

第Ⅰ次調査で確認された各遺構の詳細は次の通り。

第6表　第Ⅰ次調査の遺構計測表

遺構No.	検出地区	層　位	形　状	長　径	短　径	深　さ	備　　考
PY1	BH1A	2	円　形	40	32	15	
PY2	BH1C	FⅡ～Ⅳ	隅丸方形	36	34	12	
DY3	BH1D	FⅢ～Ⅳ	不整円形	134	124	24	
DY4	BH1D	FⅠ～Ⅳ	円　形	85	76	11	地床炉
DY5	BH1D	FⅣ	円　形	134	114	13	
DY6	BH1C	FⅢ～Ⅳ	円　形	116	105	13	
PY7	BH1C	1	楕円形	79	24	14	
SY8	D区	1	楕円形	100	63	24	
SY9	D区	1	楕円形	0	51	11	
GY10	BH1C	FⅠ～Ⅳ	円　形	94	78	17	地床炉
SY11	BH1B	1	長方形	197	143	48	
GY12	BH1B	FⅠ～Ⅳ	不整円形	102	96	11	地床炉
SY13	B区	1	長方形	148	93	95	
GY14	BH1A	FⅡ～Ⅳ	不整円形	83	78	8	地床炉
DY15	D区	2	円　形	65	58	18	
PY16	D区	2	円　形	87	83	22	
DY17	BH1M	FⅢ～Ⅳ	円　形	80	78	14	地床炉
DY18	BH1M	FⅡ～Ⅳ	円　形	52	48	12	
DY19	BH1D	FⅡ～Ⅳ	円　形	55	?	7	
DY20	BH1M	FⅣ	円　形	102	86	15	地床炉
PY21	BH1M	FⅣ	円　形	46	40	7	
PY22	M区	1	円　形	216	185	12	
PY23	D区	2	楕円形	71	50	30	
PY24	M区	2	楕円形	55	43	18	
DY25	BH1B	FⅣ	楕円形	270	223	11	
SY26	M区	1	方　形	65	63	52	
KY27	A～D・M区	FⅣ		68～105	——	25～46	溝状遺構
PY28	M区	2	楕円形	71	51	13	

＊単位はcm

第Ⅰ次調査での遺構内出土遺物の詳細は次の通り。

第7表　第Ⅰ次調査の遺構出土遺物総計表

遺構No.	検出地区	土　器	フレーク	チップ	分類石器	礫　器	計
PY1	BH1C					1	1
PY2	BH1C	8					8
DY3	BH1D	11	188	13,599	13	1	13,812
DY4	BH1D	2	8	372	1		383
DY5	BH1D	33	25	5,548			5,606
DY6	BH1C	20	3	1,765	1		1,788
PY7	BH1C		44	286	16	4	346
SY8	D区	11	166	7,034	26	14	7,251
SY9	D区	101	62	4,883	14		5,060
GY10	BH1C	2		1,071			1,073
SY11	BH1B	17	128	3,012	15	36	3,208
GY12	BH1B	4	6	3,967			3,977
SY13	B区	131	169	478	37	32	847
GY14	BH1A		2				2
DY15	D区	1	16	781			798
PY16	D区	2	4				6
DY17	BH1M			230			230
DY18	BH1M	1		871			872
DY19	BH1D	1		410			411
DY20	BH1M			442			422
PY21	BH1M			392			392
PY22	M区						0
PY23	D区						0
PY24	M区						0
DY25	BH1B	52	32	8,456	8		8,548
SY26	M区						0
KY27	A～D・M区	10	15	250			275
PY28	M区						0
合　計		380	868	53,847	131	88	55,314

第3節　検出された遺物

第Ⅰ次調査で検出された遺物は総数2,163,876点を数える。今回の調査のような小範囲での膨大な遺物発見は、他に類をみない記録的な数量にのぼるものといえる。これらの多くは、ＢＨ１と称した超ロングハウス内部からの検出によるもので、４回に亘る整地層に意図的に敷き詰めた状況で出土している。

遺物は、剥片石器を中心に分類石器と礫器、土器群に分けられ、他に多量の炭化クルミが認められた。

ここでは、土器群と石器群に大別し、その概要を述べることにする。

Ⅰ　出土土器の概要

今回の調査で検出された土器は、ＢＨ１の整地第Ⅵ層のＡ区及びＢ区を中心に11,839点が認められている。この中には、復元完形土器12個体分が含まれているが、土器群の多くは、意図的に整地されていることもあって、磨滅を有したものが殆どで、拓本等の図化可能の土器片は、僅か１割弱であった。

第Ⅰ次調査で扱う出土土器としては、文様の比較的明瞭となる186点を対象とするが、後述する第Ⅲ次調査～第Ⅷ次調査出土土器も総合した共通の分類基準を設けることにする。出土土器を検討するために「施文の分類」・「文様表出技法」・「器形の分類」・「ループ施文等の無分区画による文様帯の分類」と四者を選出し、それぞれの分類基準を便宜的に設定することにする。

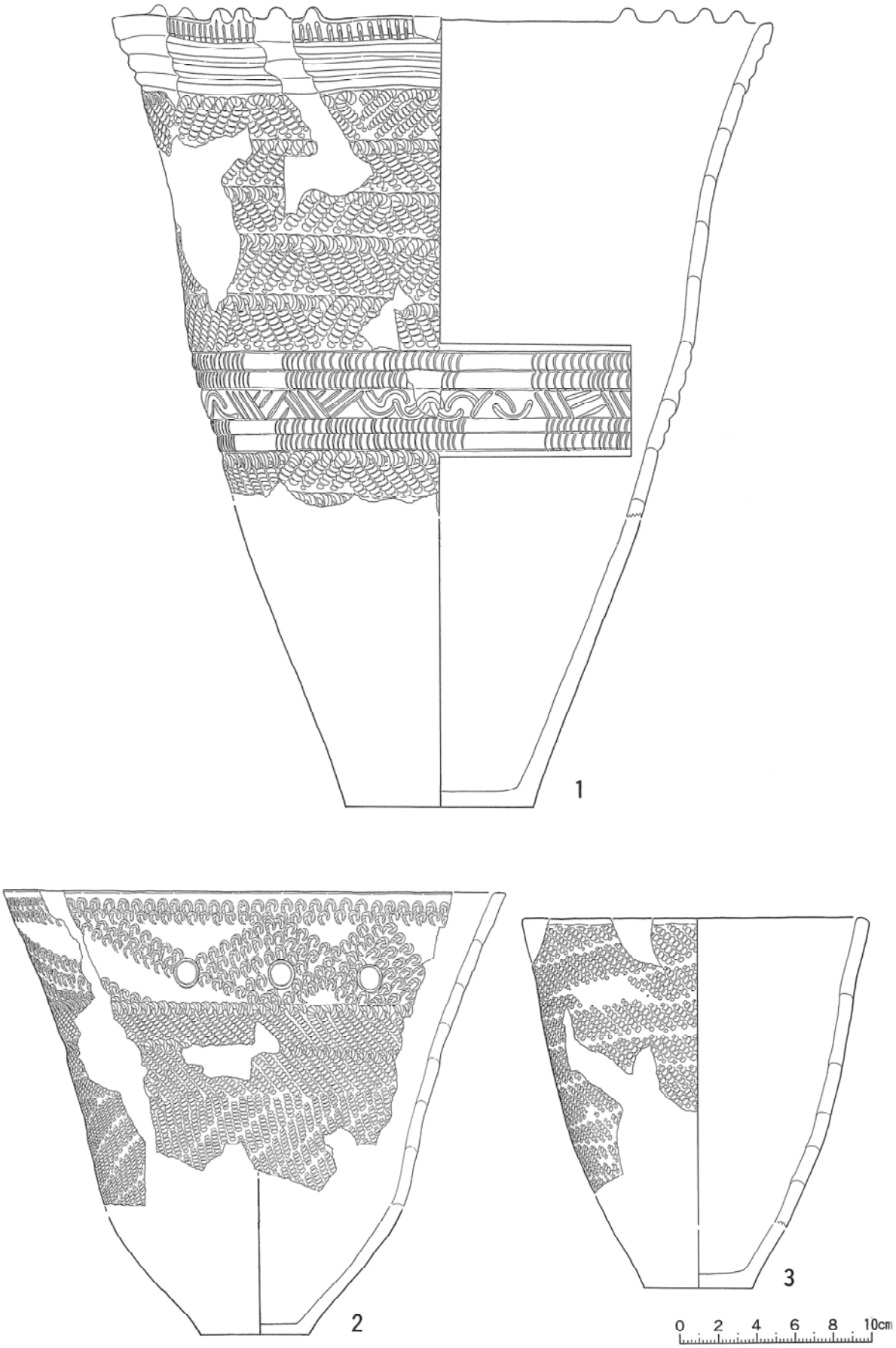
以下、簡単に説明を加える。

なお、第Ⅰ次調査での各遺構・遺構外の出土数量は次の通り。

第8表　一ノ坂第Ⅰ次調査出土土器総計表

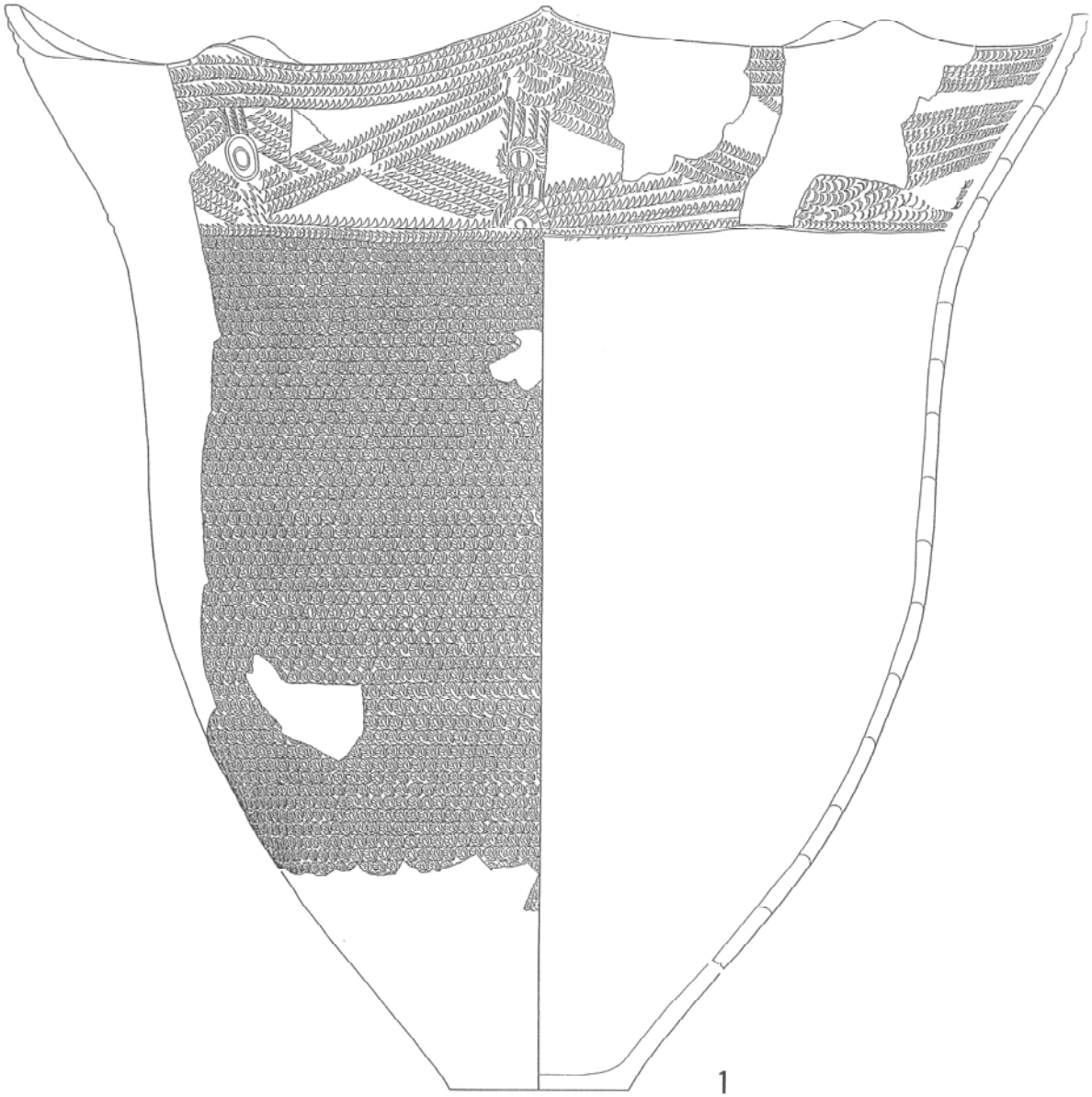
〈住居内出土〉

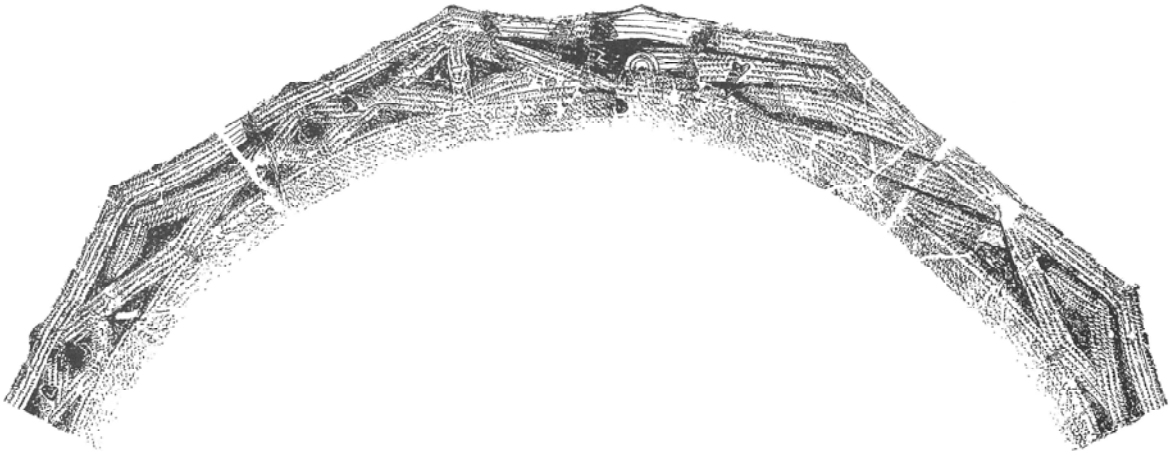
ＢＨ１	Ａ区	Ｂ区	Ｃ区	Ｄ区	Ｍ区	計
第Ⅰ層	476	583	997	551	341	2,948
第Ⅱ層	80	310	97	81	144	712
第Ⅲ層	458	392	430	368	228	1,876
第Ⅳ層	1,425	2,683	594	341	460	5,503
合計	2,439	3,968	2,118	1,341	1,173	11,039



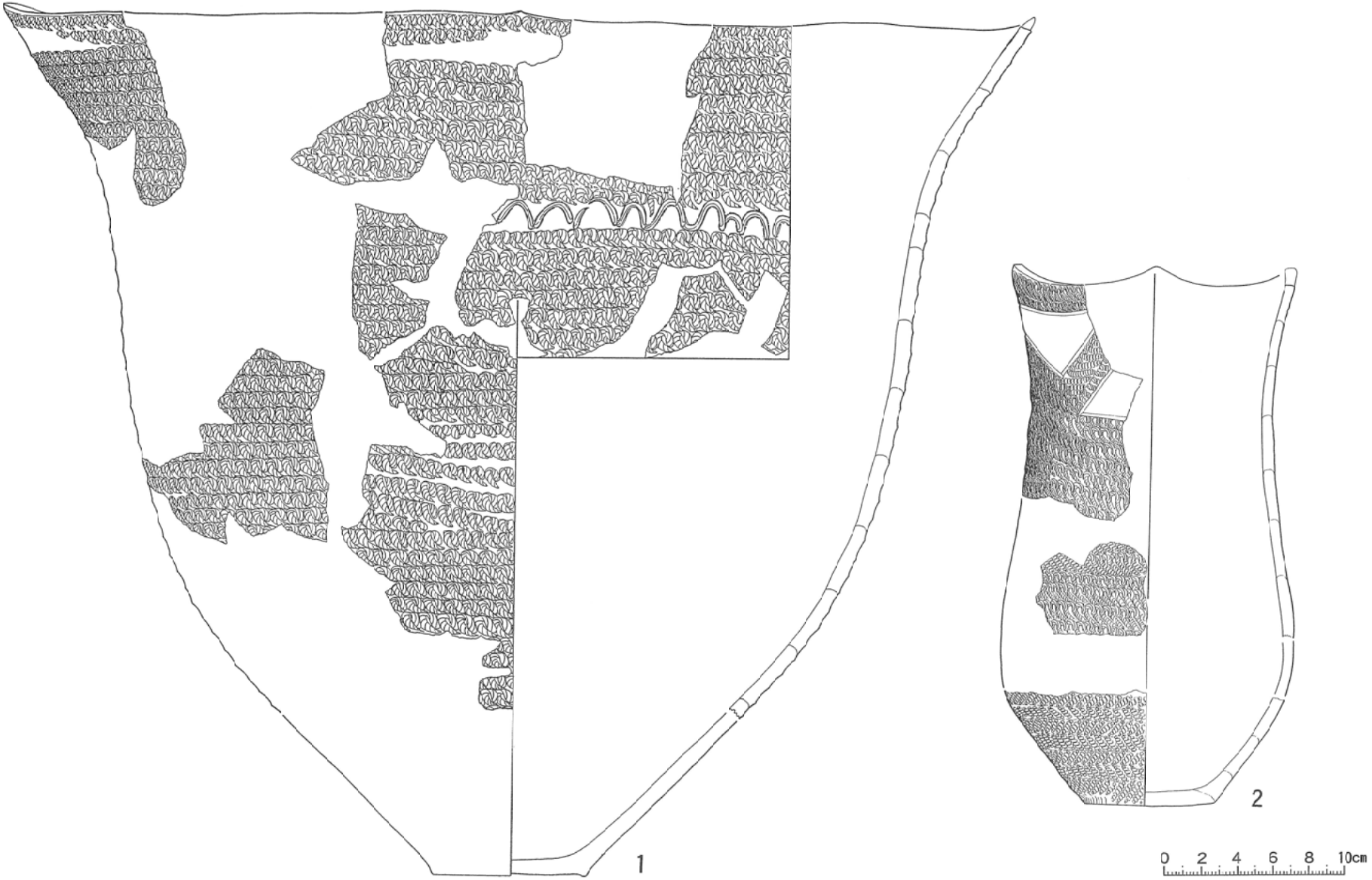
第28図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器実測図（1）

第29図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器実測図（2）

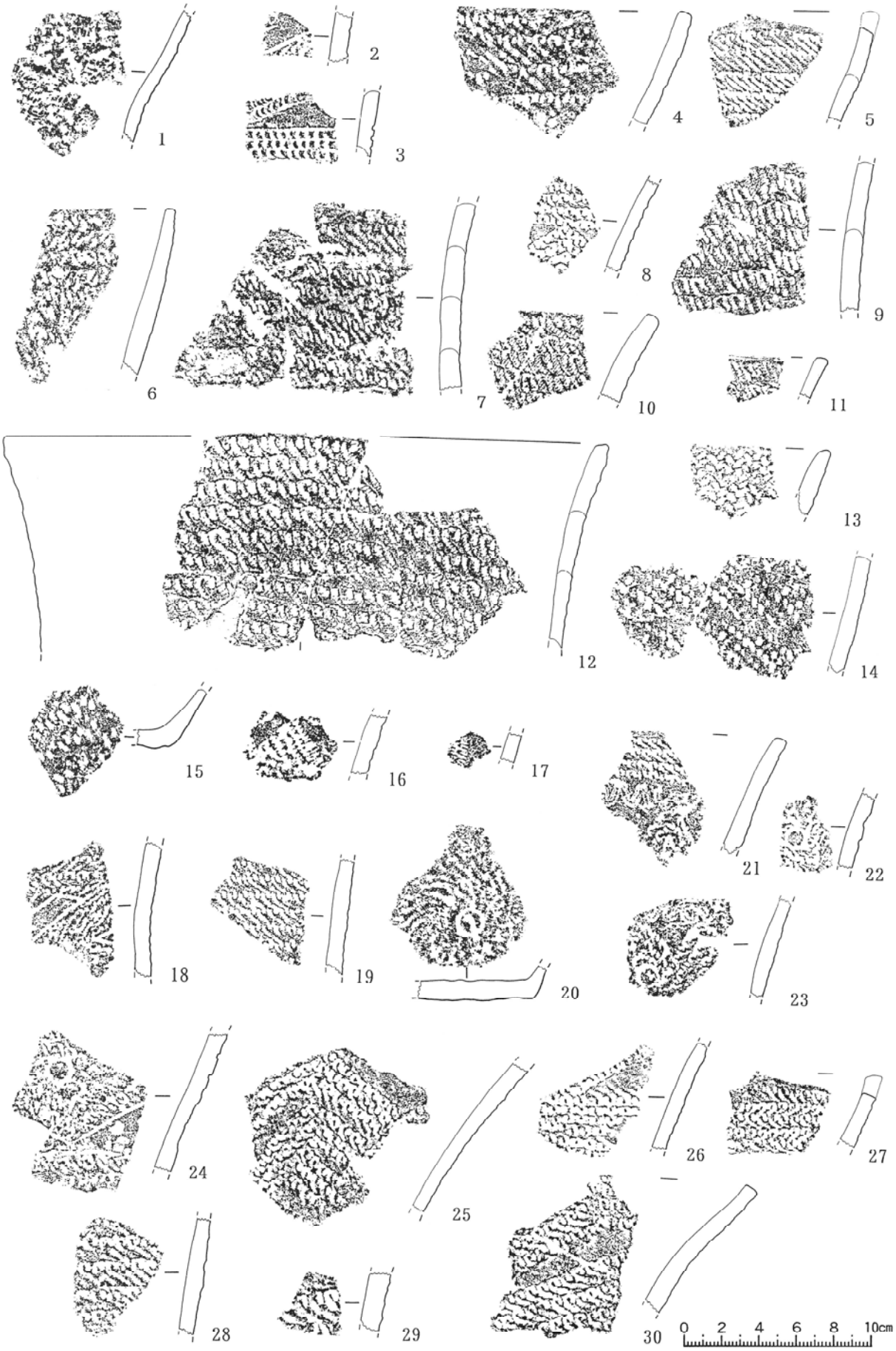




第30図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器実測図（3）

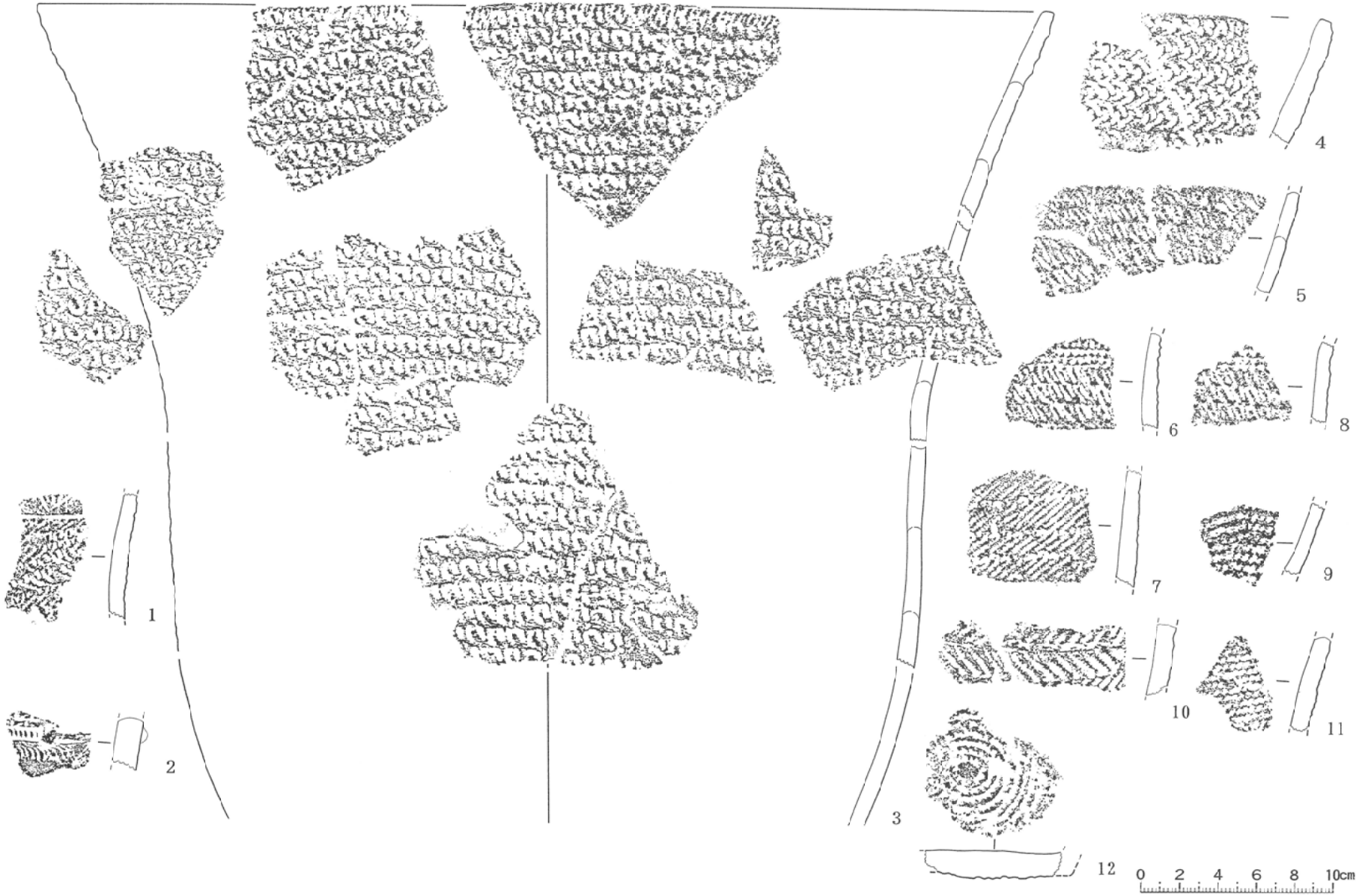


第31回　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器実測図（4）

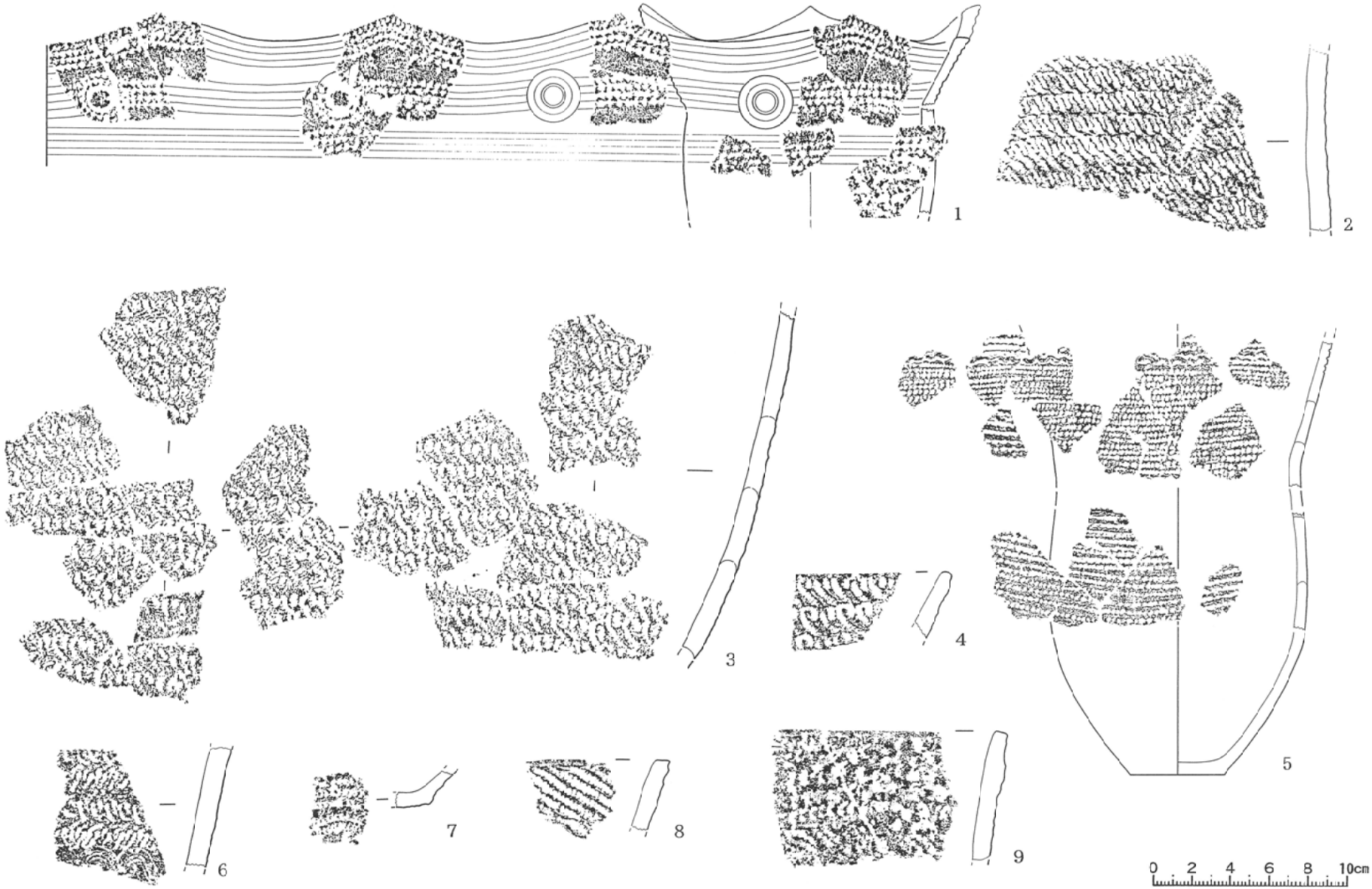


第32図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(1)

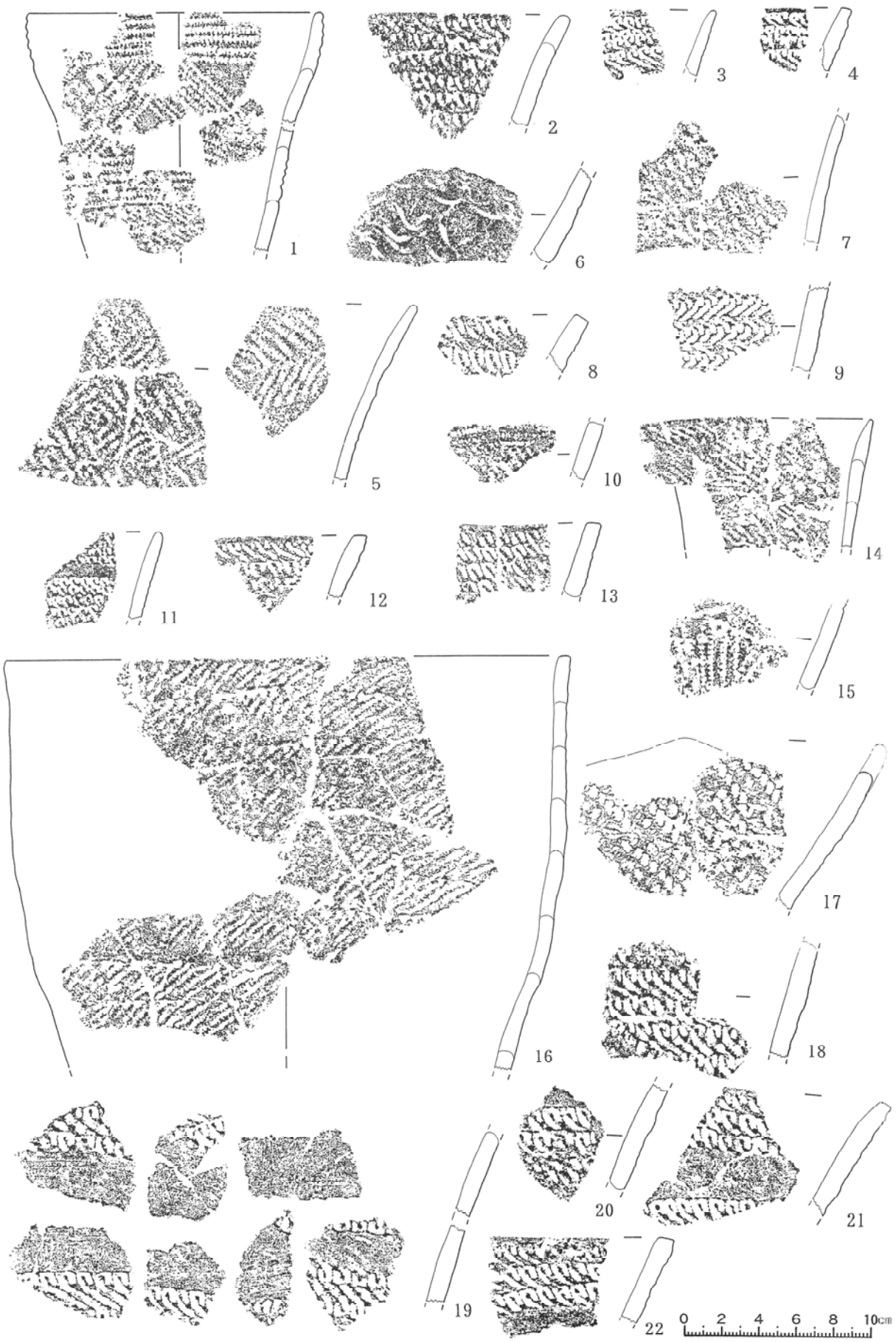
第33図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図（2）



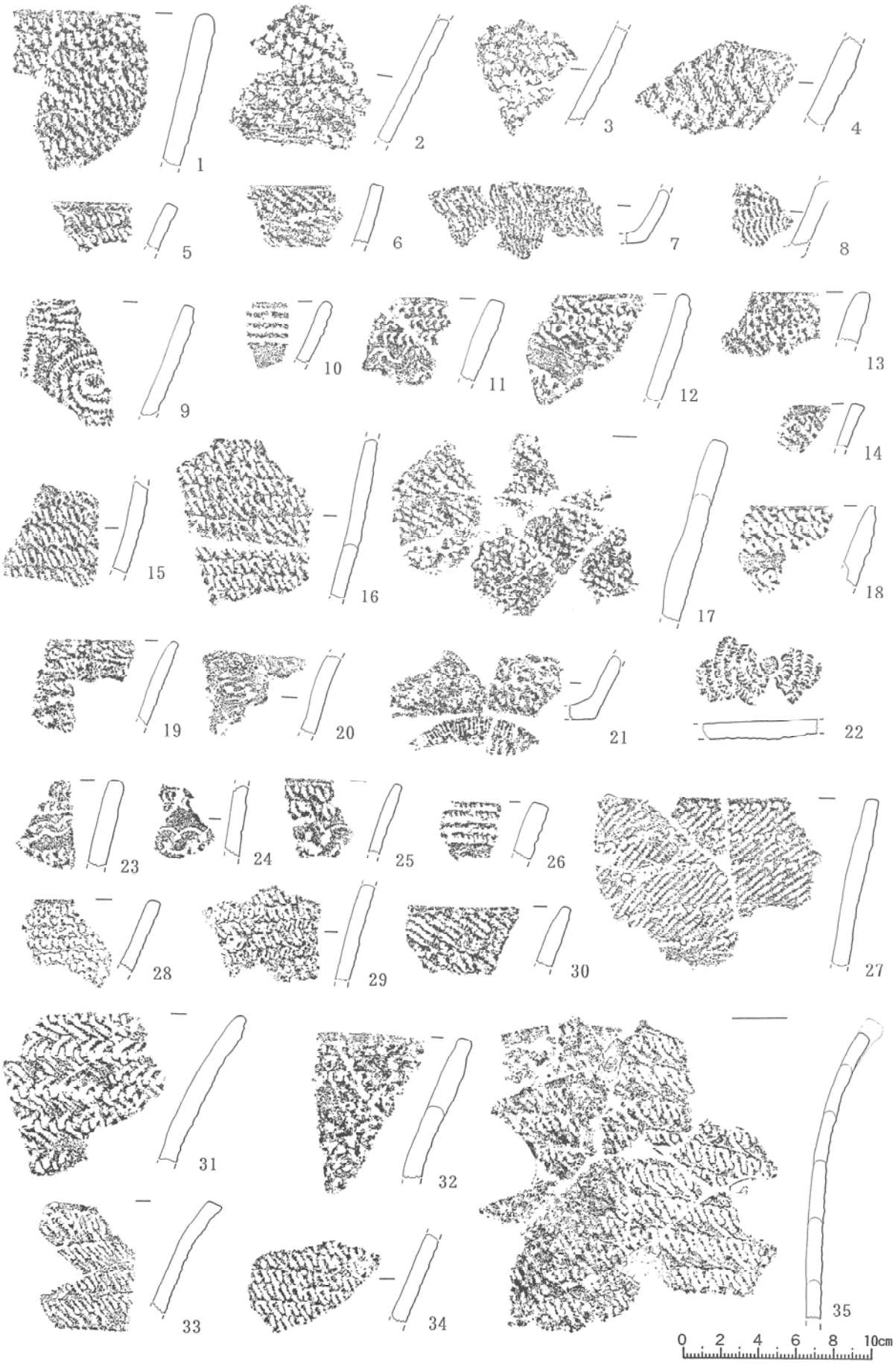
第34図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(3)



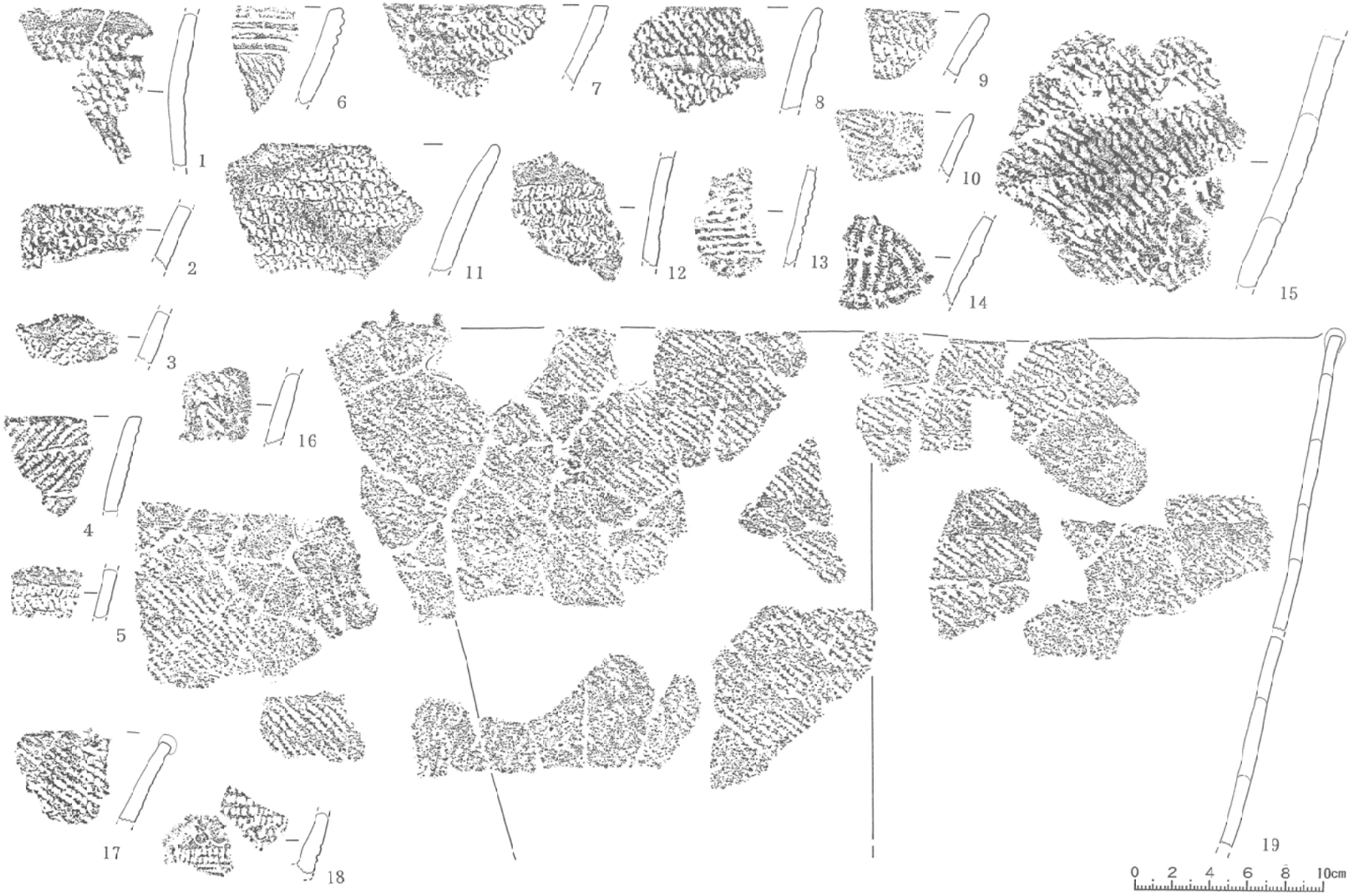
第35図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(4)



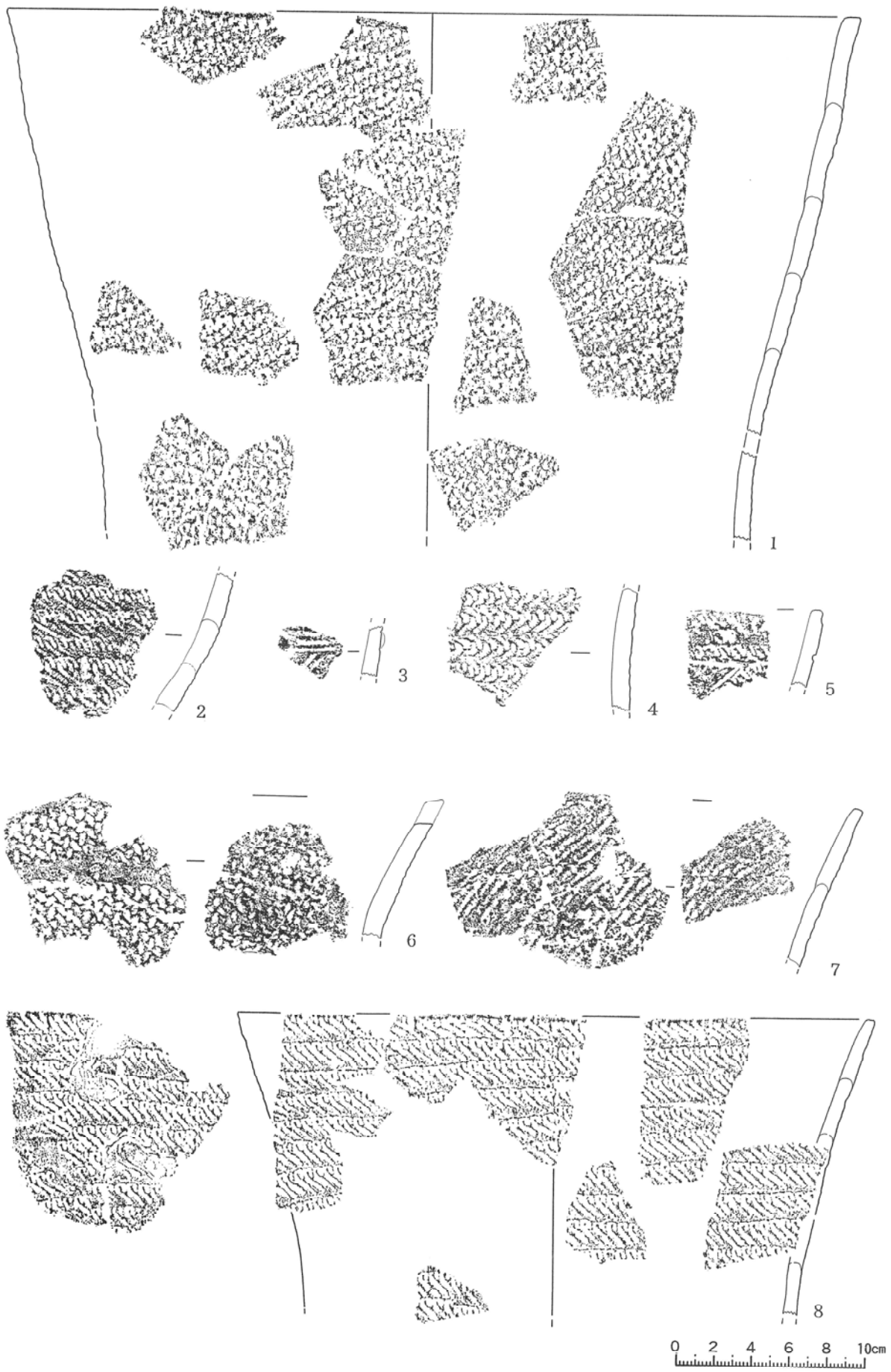
第36図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(5)



第37図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(6)

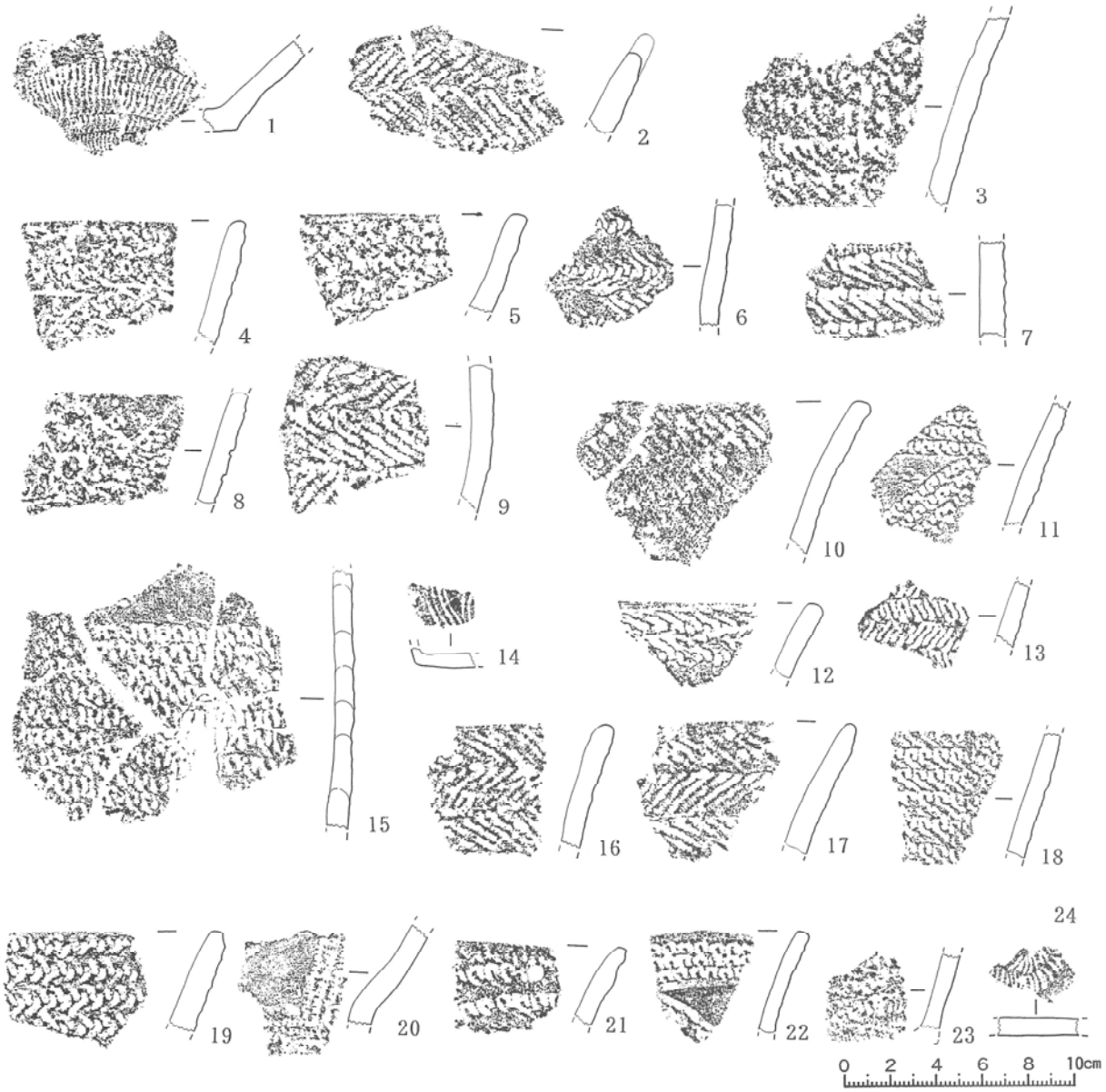


第38図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図（7）

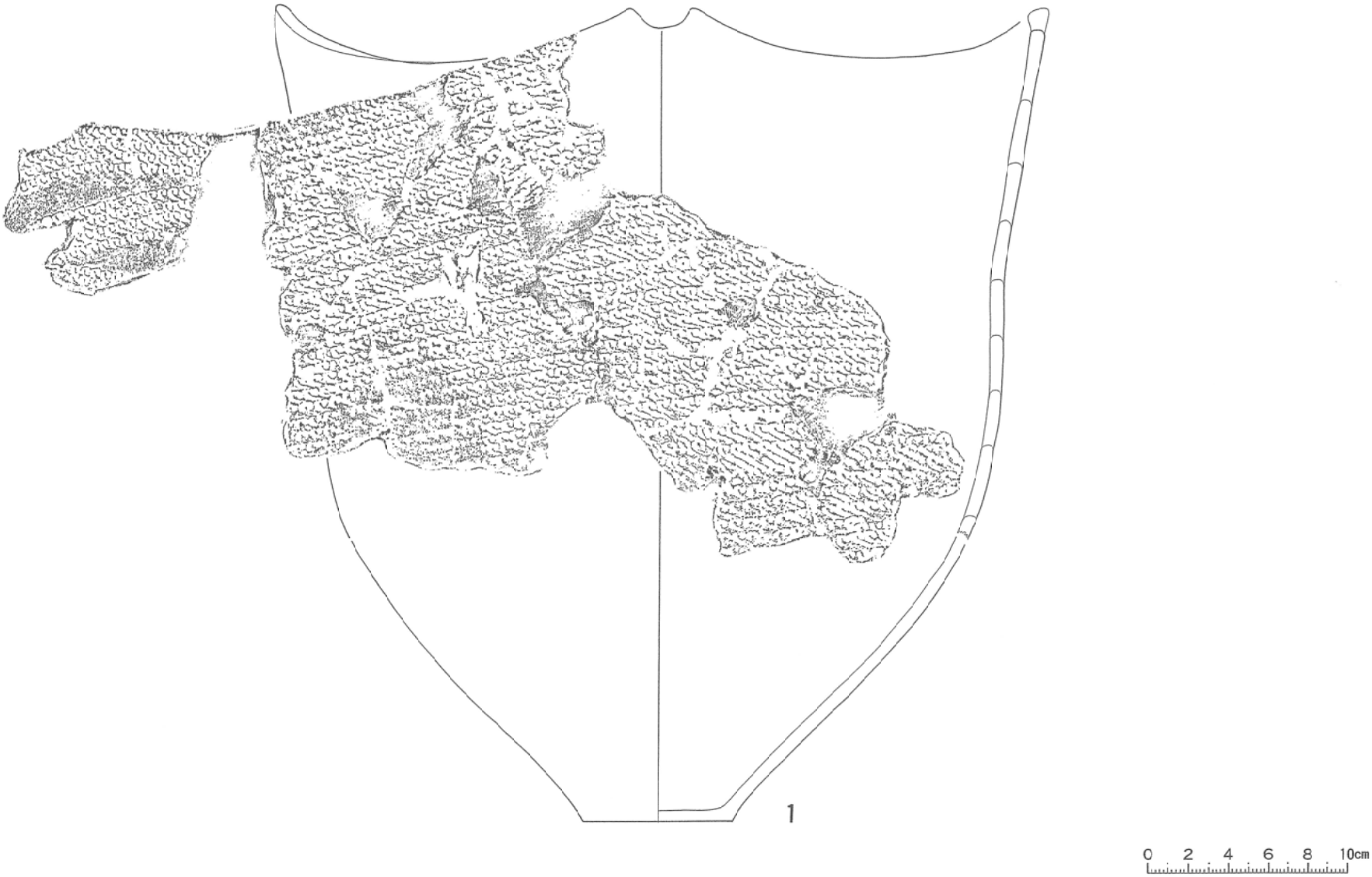


第39図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(8)

第40図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(9)



第41図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(10)



第42図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(11)

第43図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(12)

第44図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(13)

第45図　一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土土器拓影図(14)

〈住居跡内遺構出土〉

PY2＝8	DY3＝11	DY4＝2	DY5＝33	DY6＝20
DY16＝2	DY18＝3	DY19＝1	DY25＝52	GY10＝2
GY12＝4	SY8＝11	SY9＝101	SY11＝17	SY13＝131

〈遺構外グリット出土〉

GG＝30	HG＝1	IG＝9	JG＝11	NG＝31	PG＝16	QG＝14

耕作土＝112

・住居跡出土合計＝11,039　・住居跡内遺構出土合計＝380　・住居跡外グリット＝308

・その他の合計＝112　・出土土器総数＝11,839

1．地文の分類

第Ⅰ次調査の出土土器を例にとれば、総数11,839点のうち、文様の識別される土器片が9,650点、磨滅等によって文様の不明なもの2,080点となる。この中で、縄文原体を地文とする土器片の割合は、全体の約55％を占め、6,769点を数える。さらに、地文となる原体を細別して列挙すれば、ループ文を有するものが4,162点。単節斜縄文を有するものが1,425点。羽状縄文を構成するもの476点。結束縄文を有するもの351点。組紐縄文を主体とするもの218点。

複節縄文を有するもの96点。撚糸文を有するもの25点。そして、最も少ないのが無節縄文の16点であった。こうしてみると、ループ文を地文とする割合が全体の62％を占め、次いで単節斜縄文の21％、羽状縄文が7％と続き、他は全て5％未満となっている。

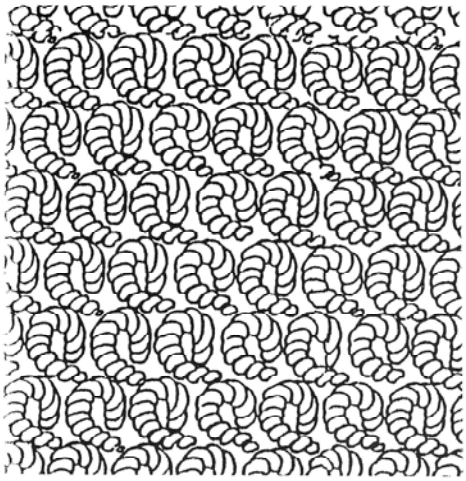
こうした傾向は、第Ⅲ次調査～第Ⅶ次調査出土の土器においても共通しており、一ノ坂遺跡の特徴といえる。以下、地文について細分を試みる。

1）ループ文『第46図』

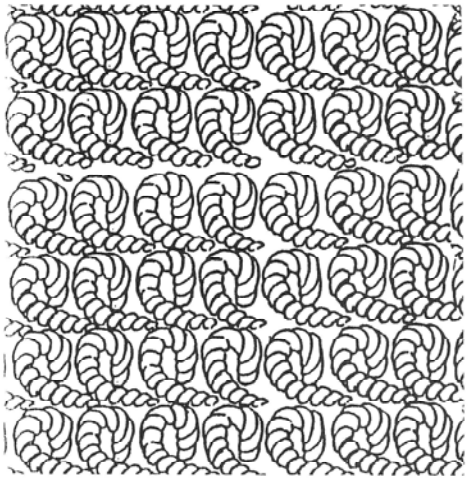
一ノ坂遺跡出土の土器の中で最も用いられている地文がループ文であり、全体の62％を占めている。この仲間の多くは、波状口縁部を呈する深鉢形土器が比較的多くみられ、原体の施文方法と撚りの強弱の特徴から次の6グループに分けることが可能であった。

・ループA類＝LR・RL単節の比較的撚りの硬い原体を用いたループ文である。原体の先端部分に圧力を平均的に加えながら回転押捺することによって円に近い「の」字状に施文したもの。

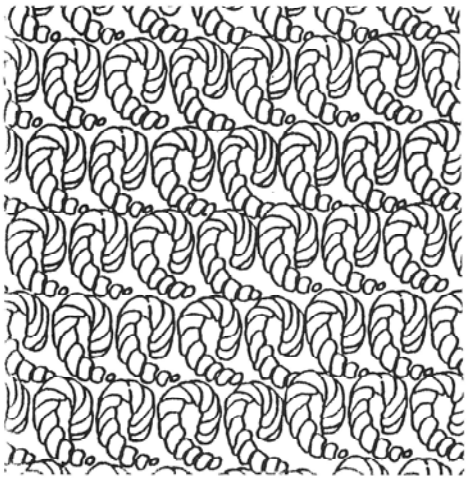
・ループB類＝LR・RL単節の比較的撚りの硬い原体を用いたループ文で、原体の先端から下半部に圧力をかけながら回転押捺することによりループの下半部の縄文が次ぎのループ面に斜行するものを本類とした。



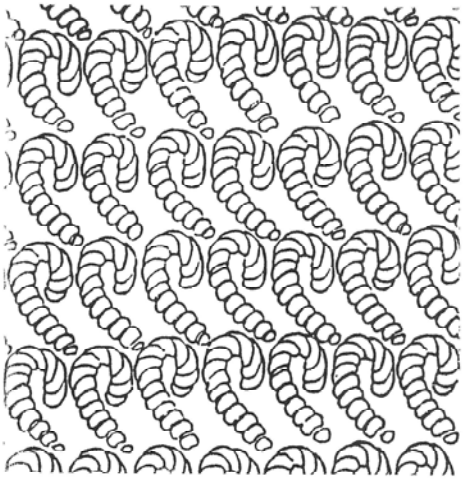
ループA類



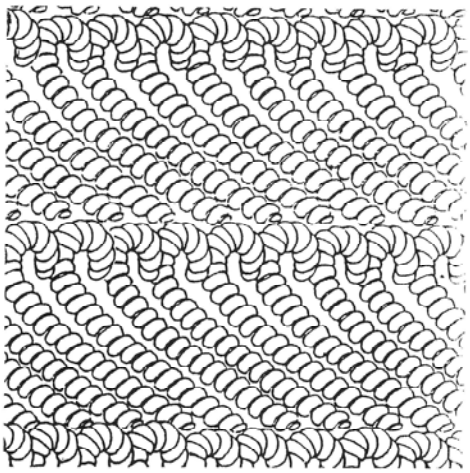
ループB類



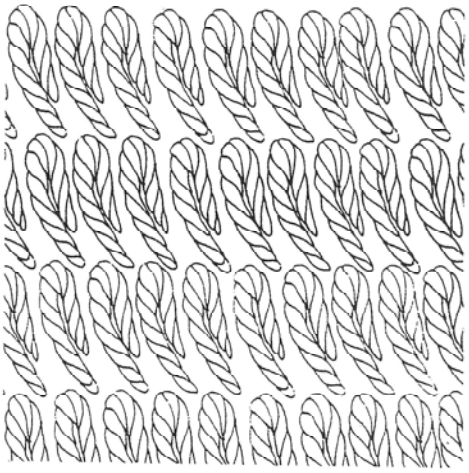
ループC類



ループD類



ループE類



ループF類

第46図　一ノ坂遺跡出土土器ループ施文の分類模式図

・ループC類＝ＬＲ・ＲＬの前々多条３～４本を用いたループ文で、原体の節が長いのが特徴となる。ただし、土器の器面が軟弱な場合は回転方向に流れることによってループA類やループB類の原体でも本類のような効果を表出する場合もある。

・ループD類＝ＬＲ・ＲＬ単節の比較的撚りの緩めの原体を用いたループ文で、ループ文の下半分を多く残すのを特徴としている。押圧は弱く回転速度も比較的遅く施文している。

・ループE類＝ＬＲ・ＲＬ単節よるものとＬＲ・ＲＬの前々多条３～４本を用いたものが含まれる。ループ部分の先端から延びる縄文を原体を多く残して施文法するのが特徴となる。

・ループF類＝最初の０段階の撚りｒ・ℓを緩くした原体を１段階の撚りとなるＲＬ・ＬＲの際に強く撚ることによって撚糸状の施文を有するもので、全体のループ文の割合からすれば、約１割を占めることから意図的な施文手法と推測される。

２）無節縄文（ℓ・ｒ）

縄文原体を地文とする仲間では最も少なく全体の0.2％にすぎない。

・無節縄文A＝斜縄文を有するもので、２本の原体で施文するもの。

・無節縄文B＝斜縄文を有するもので、前々多条を３本以上で施文するもの。

３）単節縄文（ＬＲ・ＲＬ）

ループ文の次に多く用いられる地文が単節縄文で、全体の21％をを占めている。この原体には前々多条を有するものも数多く存在しており、分析では最高として７本多条を確認することができた。ここでは、多条とそうでない原体に施文手法の異なり等を細分し、次の９種類に分けてみた。

・単節縄文A[1]＝斜縄文を有するもので、２本の原体で施文するもの。

・単節縄文A[2]＝斜縄文を有するもので、前々多条を３本ないし４本の原体体にて施文するもの。

・単節縄文A[3]＝斜縄文を有するもので、前々多条を５本以上の原体にて施文するもの。

・単節縄文B[1]＝左右のＬＲ・ＲＬを用いて羽状縄文を展開するもので、２本の原体で施文するもの。

・単節縄文B[2]＝左右のＬＲ・ＲＬを用いて羽状縄文を展開するもので、前々多条を３本ないし４本の原体にて施文するもの。

・単節縄文B[3]＝左右のＬＲ・ＲＬを用いて羽状縄文を展開するもので、前々多条を５本以

上の原体にて施文するもの。

- 単節縄文C[1] ＝左右のＬＲ・ＲＬを用いて左右交互の菱形状に羽状縄文を展開するもので、２本の原体で施文するもの。
- 単節縄文C[2] ＝左右のＬＲ・ＲＬを用いて左右交互の菱形状に羽状縄文を展開するもので、前々多条を３本ないし４本の原体にて施文するもの。
- 単節縄文C[3] ＝左右のＬＲ・ＲＬを用いて左右交互の菱形状に羽状縄文を展開するもので、前々多条を５本以上の原体にて施文するもの。

４）複節縄文（ＬＲＬ・ＲＬＲ）

今回の一ノ坂遺跡で僅かに用いられている原体で、県内の縄文前期初頭の遺跡からはほとんど認められないことから注目される。全体では1.4％を占めている。

５）撚糸文（ｒ・ℓ）

ℓ及びｒの原体を棒状工具に巻き付けて施文したもので、僅かに認められている。全体の0.4％を占める。

６）組紐縄文

大型の深鉢形土器の地文として用いられる例が多く、後述するループ文などに顕著にみられる無文区画に発展するものは確認されていない。全体での約３％ほど含まれている。

７）結束縄文

左右の撚りを組み合わせて羽状縄文を構成する施文手法で、ループ文を主体に出土する遺跡には比較的多く含まれているのが通常であるが、一ノ坂遺跡に関しては、全体の５％と少ないといえる。施文方法より次の二者に分けた。

- 結束縄文Ａ＝結束部分を施文するもの。
- 結束縄文Ｂ＝結束羽状縄文を施文するもの

２．文様表出技法

縄文原体による施文以外の文様表出技法を分類するもので、地文と共存するものも含め、2,881点が確認されている。棒状工具や竹状工具を用いて施文する沈線文や半載竹管を始め次

の4グループに分けられる。

1）竹管文

・竹管文A＝竹管による円形の突刺を有するもの。

・竹管文B＝半載竹管で施文した平行沈線文。

・竹管文C＝半載竹管で平行線を埋めるように連続施文する続突刺文。

・竹管文D＝半載竹管で連続施文する突刺文。

2）突刺文

・突刺文A＝ヘラ状工具の先端で連続施文したもの。

・突刺文B＝ヘラ状工具を平行に用いた連続突刺文。

・突刺文C＝棒状工具による連続突刺文。

3）沈線文

・沈線文A＝ヘラ状工具による沈線文で断面が「V」字状を示すもの。

・沈線文B＝棒状工具による沈線文で断面が「凹」状を示すもの。

4）貼付文

ボタン状の粘土を器面に貼付するもの。

3．器形の分類『第47図』

一ノ坂遺跡から出土した土器は、基本的に深鉢形土器に分類される。大半の土器には、煮こぼれによる炭化物の付着や二次焼成を受けた痕跡を示すことより、煮沸用に使用したものと考えられる。また、口径と器高の比率がほぼ等しい大型の深鉢形土器が多いのも特徴で、50cm以上を測る深鉢形土器も5点検出されている。ここでは、器形の特徴から次のように分類してみた。

・深鉢形A類＝第30図－1を代表としたもので、緩やかな波状口縁部が外反し、胴部がほぼ垂直に垂れながら下胴部で曲がりそのまま底部に斜行するのを特徴とするもの。大型の深鉢形土器に用いられる。

・深鉢形B類＝緩やかな波状口縁が大きく口縁部が外反し、球形に近い形で緩やかに胴部が曲がり、そのまま底部に移行するのを特徴としている。第29図－1がその典

第47図　一ノ坂遺跡出土土器器形分類図

型となるように器高よりも口径の比率が大きく、大型の深鉢形土器にみられる。

・深鉢形C類＝波状口縁が顕著に発達し、ほぼ直角に口縁部が立ち上がる。胴部は、B類の深鉢形土器と同じように、球形に近い形で緩やかに胴部から底部に曲下している。

・深鉢形D類＝口径を1とした割合の器高は1：1,2を測り、一ノ坂遺跡で最も多くみられるのが本類の器形で、全体の約6割を占めている。口縁部が緩やかに外反し、下胴部で曲しながら斜めに垂下して底部と向かうのを特徴としている。

・深鉢形E類＝口縁部の外反はD類の深鉢形土器と同じであるが胴部のふくらみは少ないことから長身で細身を有する。第28図－2が代表となるが、全体の中では僅かに存在する程度である。

・深鉢形F類＝比較的小さな深鉢形土器にみられた器形で、外反する口縁部が胴部で急速に内反して底部に向かうのを特徴とし、第28図－2が代表となる。

・深鉢形G類＝波状口縁をなし、外反する口縁部が頸部ですぼまりながら胴部へと広がり、下胴部で最大径となる。下胴部からの垂移は極端で、球形を示しながら直ぐに底部となる。そのため、底部は広く特徴的な長身の深鉢形を示している。全体の割合は極端に少ない。

・深鉢形H類＝口縁部が開きながら胴部で僅かに曲して底部に向かう鉢形に近い器形を特徴としている。大型の深鉢形に用いられ、縄文原体のみで飾られる場合が多い。第43図－1を代表とし、全体の中では少ない器形である。

・深鉢形I類＝口縁部が僅かに外反し、胴部のふくらみはなく、そのまま底部へ斜行する器形である。第28図－3を代表とする。

4．ループ施文等による無文区画（沈線）の文様帯分類

縄文前期初頭の関山式の仲間には、器面の一部に特定の空間帯を残し、縄文原体（特にループ文）を施文する手法が知られている。中には、施文した縄文の一部を消すものや空間部分を鄭重に研磨しているものも含まれている。

こういった特徴は、縄文中期後葉期に出現する所謂「磨消縄文」に類似するもので、縄文前期初頭の文様技法の一手法として確立したと考えざるを得ないものといえる。しかしながら、関山期並行の無文区画を有する資料が少ないことや詳しい分析が行われていない現状もあり、文様帯（単位文様としての確立）として位置付けることは困難な部分も否定できない。

幸い、一ノ坂遺跡出土の土器群には、無文区画による文様帯として構成するものが比較的多